校内研修経営のポイントを
提案します！！

# 校内研究・研修ハンドブック

「授業研究の時間がなかなか確保できない。何かよい方法はないかな。」

「校内研究がうまくまとまらない。困ったなあ。」

「授業研究をしても，みんな遠慮して発言しないんだよなあ。」

「教科の壁を越えて授業研究できたらいいなあ。」

島根県教育センター　2009,4

## ◎はじめに

本書は，各学校において，主体的・自律的な校内研究・研修を進めていくにあたって，疑問や課題となる事柄について，**Ｑ＆Ａ形式で解説**した校内研究･研修充実のためのハンドブックです。各学校の実態に応じて**どこから読み進めて頂いてもかまいません**。また，本書は平成１８年度から２０年度にかけて行った共同研究に基づいて作成しましたので，あわせまして，ぜひ**研究紀要（島根県教育センターのホームページよりダウンロード**できます。）**もご覧ください**。

３年次の研究を進めるにあたって注目したのは校内研修を経営するという視点です。今求められている主体的・自律的な学校経営のためには，組織マネジメントの考え方が重要で，その**主体的・自律的な学校経営を支えていく源となる校内研修についても，経営するという視点を導入することで充実・活性化が図れる**のではないかと考えています。

また，校内研修の充実は，これまでも言われてきたことですが，近年とみに，学校は様々に困難な状況を抱えており，その諸課題を克服するためにも時代に合った効果的な校内研修の在り方についての事例や提案を求める声が強くなっています。これまでの校内研究・授業研究の伝統の上に立って，これらの意義を再認識し，意識的に取り組んでいくことが大切です。校内研究・研修を活性化するために，**本書を様々な実施主体や立場で読みかえ**て参考にして頂ければと考えます。

さらに，全国的にもワークショップ型授業研究に代表される**新しい授業研究の方法**が盛んに取り入れられています。参画意識を高め効率化を図る上でも有効な手法だと考えますので，本書を参考に取り入れて頂ければと思います。

島根県教育センター内には，校内研究・研修の進め方等について気軽に相談できる部署として**学校・教職員支援事務局を設置しておりますので，どうぞお問い合わせください**。この「校内研究・研修ハンドブック」が校内研修活性化のための一助となれば幸いです。

＊本書並びに校内研究・研修に関するお問い合わせ先
島根県教育センター　企画・研修スタッフ
学校・教職員支援事務局
（TEL　0852-22-5865）
（FAX　0852-22-6761）

〈参考〉これまでの研究：
・「授業力向上のための研修の在り方」（1年次）
（http://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/kenkyu/18nendo.data/jyugyokojyo.pdf）
・「授業力向上のための研修の在り方ーワークショップ型授業研究の提案ー」（2年次）
（http://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/kenkyu/19nendo.data/kyousyokuin_kenshu_staff.pdf）
・「校内研修の充実・活性化に資するための研究～校内研修経営という視点に立って～」（3年次）
（http://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/chousa_kenkyu/20nendo.data/kyousyokuin_kennsyuu.pdf）

〈理論編〉

Ｑ１　そもそも**校内研究の始まり**はいつ頃からですか。

Ｑ２　校内研究の**目的**は何ですか。

Ｑ３　校内研究と**校内研修との関係**を教えてください。

Ｑ４　**研究組織**はどのようにすればよいですか。

Ｑ５　初めて**研究主任**になりとまどっています。私だけでしょうか。

Ｑ６　**研究主題**の設定はどのようにすればよいですか。

Ｑ７　研究を進める上で**実態把握**の方法としてどのようなものがありますか。

Ｑ８　**研究計画**を決める場合の留意点は何ですか。

Ｑ９　**検証**が大変です。何かよい方法がありますか。

Q10　**研究のための研究にならないようにするために**はどうしたらいいですか。

Q11　**授業研究**はどの国でも前から行われているのですか。

Q12　授業研究をしてどうなるのですか，授業研究の**意義**は。

Q13　授業研究を実施する場合にどんなことに**気をつけたら**いいのですか。

Q14　「授業研究の**視点を決める**」ということをよく聞きますが，どのようなことですか。

Q15　授業研究の**時間を確保**することがむずかしくなっています。何かよい方法がありますか。

Q16　**参加型の研修**がはやっていますが，新しい授業研究の方法を教えてください。

Q17　**ワークショップ型授業研究**を行う場合に，何か準備するものがありますか。

Q18　ワークショップ型授業研究をどのように**進めれば**よいですか。

Q19　全国的にどのような**校内研修**が行われていますか。

Q20　**小規模**中学校のため，教科の研修がなかなかできません。何かよい方法がありますか。

Q21　校内研修会を企画する上で，**参加意欲を高める**ために何かよい方法がありますか。

Q22　**授業評価**を授業改善につなげるためにどのようにしたらよいですか。

Q23　授業参観表を用いて，授業を見学したいと思います。**授業参観表の例**を教えてください。

〈実践編〉　「ワークショップ型研修で校内研究を見直す」

事例①　**ポスタワー**でシンボル化（年度当初）

事例②　**ビデオ視聴**による授業研究（年度途中）

事例③　**研究計画**を見直す（年度末）

事例④　研究の**行動計画**を作る（次年度当初）

## Ｑ１　そもそも校内研究の始まりはいつ頃からですか。

Ａ：　明治になって新しい近代の公教育制度が始まり，新しい指導法の伝達が始まりました。まず各県の代表の教員が東京の師範学校に行き，新しい教授法を学んで，自分の県に帰って県内の先生方を集め伝達しました。さらに，教わった先生方が，自分の学校に帰って，校内の先生方に伝えたのです。これが**校内研究の始まり**と言われています。

そして，次第に座学だけでは面白くないので，授業をとおして検証していこうという発想が生まれ，これが**授業研究の始まり**だと言われています。

＊参考文献　『日本の教師再生戦略』（千々布敏弥　著　教育出版 2005）
「授業研究と新しい学校づくり」（千々布敏弥　平成 19 年度岩手県教育研究発表会講演記録『教育研究　岩手』2008）

## Ｑ２　校内研究の目的は何ですか。

Ａ：　学校において行われる研究は一般に教育研究といわれ，**日々の教育実践の中で課題を見いだし，その解決に向けて研究を行う**ものです。そして，継続して教育研究を行うことによって，教育実践の質が向上するのです。松江教育センターで昭和５６年から平成１３年まで行われていた「教育研究法講座」の中で取り上げられ紹介されていた教育研究の方法として，教育研究を深めるという観点から大きく３段階に分けた上で，以下のような研究方法が紹介されています。「各学校で，どの段階の研究を行うのかをはっきりさせて研究に取り組むことが有意義な結果を得る第一歩」であり，研究課題を解決するために，研究対象や，研究の目的・内容・方法等について充分な構想を練ることが大事になってきます。

| | 研究名 | 研究方法 |
|---|---|---|
| **第１段階**<br>実態の把握と<br>問題点の解析 | **調査研究** | 事前調査→仮説の設定→実践→検証のための事後調査 |
| | **事例研究** | 事実→問題の原因・要因の解析→解決・改善の手がかり |
| **第２段階**<br>指導方法を改善する<br>具体的な提言 | **実践研究** | 実践→問題点等の抽出<br>→指導法の効果の検証，新たな指導仮説の提案 |
| | **教材開発研究** | 新しい教材・題材→授業実践→指導目標達成の検証 |
| **第３段階**<br>指導仮説の有効性を<br>科学的に証明 | **実証研究** | 理論・仮説→科学的な手法を用いての検証 |

**今年度の校内研究として，どの段階まで進めるのかを確認**し，どのような研究方法を用いるのか吟味した上で，研究を進めていくことが大切です。

## Ｑ３　校内研究と校内研修との関係を教えてください。

Ａ：　言うまでもなく，「教育公務員は，その職責を遂行するために，絶えず研究と修養に努めなければならない。」（教育公務員特例法第２１条第１項）のであり，**校内研究は，学校教育目標を達成するために，自校の課題等に基づいて，研究主題を設定して，計画的・継続的に教職員が協働で研究し成果を生み出していくもの**です。

一方，教職員の資質能力の向上を目指して行われる研修の中で，学校内で行われるものを自己研修や校外研修と区別して校内研修と呼びます。校内研修は一般に，校内の全教職員が自校の教育目標に対応した学校としての教育課題を解決するためにテーマを設定し，学校全体で計画的・組織的・継続的に実践していく改善のための活動と言えます。

いずれも，研究・研修を通して教職員自らの指導力や実践力を向上させ，ひいては，子どもへの教育の質的改善を図ることが肝要で，**校内研究と校内研修がうまく関連するように，研修計画を立てていくことがポイント**です。

## Ｑ４　研究組織はどのようにすればよいですか。

Ａ：研究の推進にあたり，どのような研究組織を構成していくかは大切なポイントです。学校規模による違いはもちろんありますが，大きく，研究部等の名称で校務分掌に位置づけられている場合と，校務分掌とは別に委員会を構成し研究推進委員会等の名称で構成され，その下に学年や課題別の部会が設置されている場合があります。

いずれにしても，**教職員の総意やニーズをいかに取り込んでいくかが重要**です。**Ｑ１９の全国の先進事例**の中でも紹介していますが，長崎市立稲佐小学校では，自分たちで協議して導き出した六つの研究課題に対して，六つの実行組織を立ち上げ研究を推進しておられます。

また，校内研究に取り入れる新しい考え方として以下のような方法も有効です。

**◎プロジェクト方式**

新しいある課題解決のために，**そのことに最も適した人材による組織を編成**し，ことにあたる。期間限定で明確な目標達成が可能。

**◎パートナーシップ**

立場や属性を異にする人々が共同でことにあたる。代表的なものが，**学校と大学等の研究者による共同研究**。

＊参考文献

『教師が磨き合う「学校研究」授業力量の向上をめざして』（木原俊行　著　ぎょうせい 2006）
『中学校　校内研修の進め方・深め方』（渡部邦雄・中進士・唐澤勝敏　編著　文教書院　1992）
『小学校　校内研究・研修の進め方』（羽豆成二　編著　文教書院　1993）

## Ｑ５　初めて研究主任になりとまどっています。私だけでしょうか。

Ａ：　松江教育センターで昭和５６年から平成１３年まで「教育研究のあり方や方法を研究することによって，教育現場における教育実践の向上を図る」目的で行われていた小・中学校の希望者対象の「教育研究法講座」において，事前提出資料における，校内共同研究の進め方に対する問題点を抜粋してみます。

〈研究意欲〉必要感にせまられた研究ではなく，**やらされるという気分**がある。
〈研究計画〉学校行事，その他突発的行事が多く，研究が**計画通りに実施できない**。
〈研究組織〉学校規模が小さく，**教員一人ひとりの負担が大きく**研究の掘り下げができない。
〈研究時間〉**極めて多忙**で落ち着いて考える時間がない。
〈研究の継続性〉人事異動によって**人が変わる**ごとに，第一歩からの繰り返しで終わる。
〈研究内容〉**仮説のつくり方**がわからない。

また平成１４年度から開催されている「小・中学校研究主任等研修」における平成２０年度の受講者アンケートによると，校内研修を進める上での問題点としてあげられていたのが右記のような項目です。

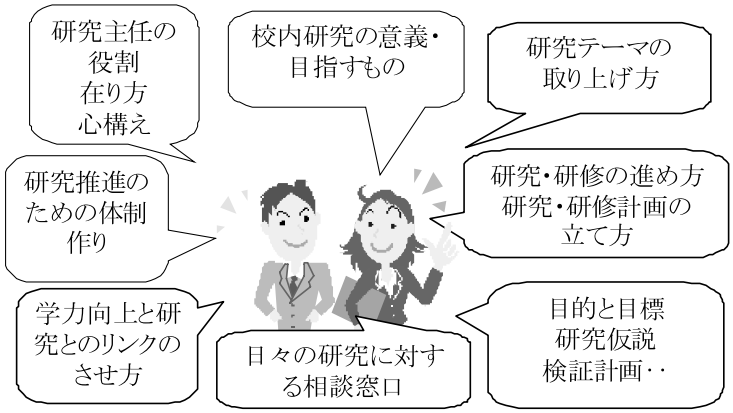
上記の「教育研究法講座」における抜粋事項と比較してみると，校内研究・研修を推進する上での課題に大きな違いは見られないようです。

このような**様々な課題に対して，校内研究・研修を活性化させるための方策として参加型の授業研究・研修に関心が寄せられています。**

参加型の授業研究・研修については，Ｑ１６で述べていますので，参考にしてください。また，島根県教育センター主管の出前講座の利用や，日々の校内研究・研修に対する相談窓口として，島根県教育センター内に学校・教職員支援事務局がありますので，気軽にお問い合わせください。

**校内研修を進める上での問題点**

**平成20年度小・中学校研究主任等研修　受講者アンケートより**




**出前講座**

授業研究支援訪問
～ワークショップ型授業研究で授業力アップ～

各学校の要望に応じ、研究主任と相談しながら、必要な講義等を提供し、校内の授業研究会の企画・運営を支援します。また、教科の担当指導主事も同行し、ワークショップ型授業研究の円滑な運営を支援します。

（昨年度の実践例　１）
・１回目の訪問
授業研究の意義等を講義し、模擬授業（代表者１名、１５分程度、略案）によるワークショップ型授業研究の演習を行った。
・２回目の訪問
教科の担当指導主事も同行し、実際にワークショップ型授業研究会に参加した。

（昨年度の実践例　２）
・１回目の訪問
ワークショップ型授業研究の概略等を管理職・研究主任に説明した。
・２回目の訪問
事前に電話で時程や進め方等を相談し、実際にワークショップ型授業研究会に参加した。

実際の流れ
① 出前決定
② 教科担当指導主事と要請の計画・日程等調整（**電話**）
③ 打合せ（電話）
④ 訪問 （１）講義・演習‥実施しない場合もあります。
（２）研究授業・授業研究
＊終了後アンケートをお願いしたいです。

問い合わせ先：松江教育センター教職員研修スタッフ
（℡0852-22-5865）
参考となる資料：松江教育センターＨＰ
http://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/kenkyu/19nendo.html
「授業力向上のための研修の在り方（二年次）
－　ワークショップ型授業研究の提案　－」
松江教育センター　ＨＰ

## Ｑ６　研究主題の設定はどのようにすればよいですか。

Ａ：　ここでは，「研究構想シート」を用いた研究構想の立て方を紹介します。次の「研究構想シート」は，島根県立浜田教育センターの研修セクションが開発した「研究構想シート」を一部改良したものです。このように**全体構想を一枚のシートに盛り込んでいく**ことで研究全体の骨格が明瞭になり，研究主題が浮かび上がってきます。

**一般的仮説（基本仮説）**に対して，検証可能な具体的作業についての予測を**作業仮説（具体的仮説）**と呼んで設定することもある。

**学校教育目標や本年度の重点・努力目標等をふまえ，個々の教員が持っている児童・生徒の成長への願いを出し合い，実態との比較検討により，協働して解決していく価値ある研究課題を発見していく校内研修を企画していく。**

**A　研究主題**

この研究がどのような教育を実現しようとしているのかを示すもの。
副題をつける場合は，研究の具体的手立ての構想を端的に盛り込んだものがよい。

**B　研究目的**

何のためにその研究をはじめるか。その研究を何に役立てようとするか。

・研究課題の背景・動機
・子どもの実態，教師の実態，社会の要請など

**D　研究仮説**（見通し）

「○○において，○○を○○すれば，○○と（に）なるであろう。」
（場，内容等）　（手立ての工夫）　（目指す子ども像）

**E　研究計画**

・内容：研究仮説を実施，確認するための具体的な研究活動について記していく。
・研究組織の構成

**F　検証計画**（子どもの変容を事実に基づいて確かめること）

・何に着目し何を検証するのか明確にし，計画に位置づける。

**C　研究目標**

この研究で何を明らかにしようとしているのかを示す。どんなことをどこまで明らかにするのか。

＊参考文献　『初めての教育論文　現場教師が研究論文を書くための 65 のポイント』
（野田敏隆　著　北大路書房　2005）

## Ｑ７　研究を進める上で，実態把握の方法としてどのようなものがありますか。

Ａ：　主な方法として①質問紙法，②テスト，③観察法，④面接法などがあります。ここでは，「面接や観察に比較して客観性の高い結果を得やすい」という利点のある①の質問紙法について簡単に説明します。**質問紙法は，「各個人の意見，態度，価値，感情，性格，行動傾向などといったさまざまなことがら（多くの場合，構成概念）を，質問文とそれに対する回答という言語活動から測定する方法」**です。**質問項目は，「事実を尋ねるものなのか，行動を尋ねるものなのか，あるいは，意識について尋ねるものなのかに留意しながら作成**」することが大切です。質問紙法における様々な質問項目の型で頻繁に用いられるのが**評定法**と呼ばれるもので，**程度や頻度などのいくつかの段階を設定し，その中から１つを選択**してもらう方法です。この時，**あえて「どちらともいえない」という回答を除き，傾向をより明確にする**場合もあります。また，回答者の発達段階も意識して，「非常に好き」を「とてもすき」などと言い換える必要もあります。さらに，学習者の実態調査にあわせて，教師の指導実態も把握するとよいでしょう。（田名場　忍　弘前大学教育学部附属教育実践総合センター准教授　講義資料より）

【例】自分の気持ちに最も近いものを一つ選んで〇をつけてください。

１，国語は好きですか。

非常に好き　　やや好き　　あまり好きでない　　まったく好きでない

＊参考文献　『学校現場における実証的な教育研究の進め方と論文の書き方』
（西田雄行　著　東洋館出版　刊　1986）

## Ｑ８　研究計画を決める場合の留意点は何ですか。

Ａ：　一年間を見通した上で，教育課程の実施状況を考慮し，**夏休み等の長期休業を活用**しながら**効果的な日程を計画**していくことが大切です。国語の書くことを研究テーマに研究を進めている県内小学校の研究計画（２年次）の事例をもとに一般的なポイントをあげます。

**①基盤作り**
１年次をふまえ，２年次で目指す児童・生徒の具体的な変容の姿や育てたい力を確認し，今年度の方向性を確立する。

学習状況調査の中で，国語の勉強の有用性についての回答状況が思わしくなく，学校独自に家庭学習及び家庭生活についてのアンケートも児童・保護者に実施。

| 月 | 研究・研修 | その他 |
|---|---|---|
| ４月 | **研究の基盤作り**<br>・研究計画他 | ・朝学習の充実<br>・書取・計算会の実施 |

| | | |
|---|---|---|
| ５月 | ・新学習指導要領についての文献輪読① | |
| ６月 | **実態把握**<br>○保護者・児童へのアンケート<br>「家庭学習及び家庭生活についてのアンケート」（保護者）<br>「国語に関するアンケート」（児童）<br>○作文の実態把握<br>交通安全の作文（全学年対象，２ヶ年分）を用いた分析<br>＊量的分析（文節数，漢字数）<br>＊質的分析（思ったこと，会話文，接続語，比喩・擬声語・擬態語） | |
| | **第１回授業研究会**<br>○研究特別支援部会　審議<br>○全体説明<br>○研究授業（特別支援学級）<br>○研究協議 | ・百マス計算・ことば遊び週間の実施 |
| ７月 | ○１１年目研修研究授業（３年）<br>**夏季校内研修①**<br>新学習指導要領についての文献輪読② | ・スキルアップサマーの実施 |
| ８月 | 夏季校内研修②<br>○**実態調査（児童作文）分析**・上下学年部会<br>「家庭学習及び家庭生活についてのアンケート」（保護者）<br>「国語に関するアンケート」（児童）<br>全校一斉作文「チャレンジタイム」を用いた分析<br>夏季校内研修③<br>国語研修会参加者の報告<br>１１年目研修計画発表会<br>新学習指導要領についての文献輪読③ | |
| ９月 | **第２回授業研究会**<br>○上下学年部会　審議<br>○全体説明<br>○１１年目研修研究授業（３年）<br>○研究授業（２年・５年）<br>○研究協議<br>○研究授業（図工）（全学年）<br>**第３回授業研究会**（訪問指導）<br>○部会　審議<br>○全体審議 | ・「聞き方」掲示<br>・「今月の詩」取組実施 |
| １０月 | ○研究授業（３年）　研究協議<br>○１１年目研修研究授業（３年） | ・パワーアップタイムの実施 |

**②実態把握**
課題点を浮き彫りにすることができる調査項目を考えて実態調査を実施する。

**③実証授業と分析考察Ⅰ**
研究の視点に基づく研究授業の実施

児童の書く力の実態把握と検証について科学的な調査による変容を把握する。

**④基礎的研究**
最新の情報の入手
指導方法の共有化
１学期の実践の見直し

**⑤実態調査の分析**
どのような課題があるのか，どのような改善策が考えられるかアンケートを集計し，グラフ化すること等によって分析する。

**⑥分析考察の見直し**
１学期の実践の見直し
２学期の方向性の確認

**⑦実証授業と分析考察Ⅱ**
第１回を受け，支援や方法の改善を行い実証授業を行う。授業研究会は，改善した視点をもとに行う。以下同じ。

| | | |
|---|---|---|
| | ○１１年目研修中間発表会 | |
| １１月 | **第４回授業研究会** | ・百マス計算・ことば遊び週間の実施 |
| | ○部会　審議 | |
| | ○全体説明 | |
| | ○研究授業（５年）　研究協議 | |
| １２月 | **第５回授業研究会** | |
| | ○上下学年部会　審議 | |
| | ○全体説明 | |
| | ○研究授業（６年） | |
| | ○研究授業（１年） | |
| | ○研究協議 | |
| | **実態把握** | |
| | 保護者・児童へのアンケート | |
| １月 | 実態把握 | ・学力テストの実施 |
| | 作文の実態把握 | |
| ２月 | **今年度のまとめ** | ・百マス計算・ことば遊び週間の実施 |
| | **研究集録作成** | |
| | 保幼小研修会 | |
| | １１年目研修最終発表会 | |
| ３月 | **来年度の方向** | |

**⑧実態把握**
変容の検証

**⑨総括的な分析・考察**
どの力が伸びて，どの力が伸びなかったのか。また，どのようなことがそれらの要因になったのか等の分析を行う。

**⑩研究のまとめと次年度の研究方針**

保育園・幼稚園との連携

**Ｑ９　検証が大変です。何かよい方法がありますか。**

Ａ：　学び合い学び続ける児童の育成を目指し研究を行った県内の小学校の事例です。**複数回繰り返して実施するために質問項目を１０個に絞っています。**

児童の「学習への意欲」等を高めることを目標に，その成果を評価するものとして，各教科のテスト・教師の見取りの他に，児童の意識調査を年３回実施し変容を追跡調査した。

| 学習についてのアンケート | 学年 | 名前 | | |
|---|---|---|---|---|
| みなさんの学校での学習について次の質問に答えてください。自分の気持ちに当てはまるなあと思うものに丸を付けましょう | とてもそう思う | すこしそう思う | あまり思わない | ぜんぜん思わない |
| ①自分から何でもやってみようと思いますか。(課題への意欲) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑩友だちの考えを聞いて新しい考えがうかんだり，なっとくしたりしたことがありますか。(学び合いのよさ) | 4 | 3 | 2 | 1 |

## Ｑ１０　研究のための研究にならないようにするためには，どうしたらいいですか。

Ａ：　大事なことは，誰のための研究かをよく考え，児童・生徒の変容を目指した研究にすることです。**どこに課題があり，どのような問題意識を持って，何のためにその問題を研究しようとするのかきちんと把握してスタートすることが大切**です。そのためには，まず児童・生徒の実態把握を行い，最初に自校の課題をきちんと把握することが大切です。そして目標を設定し，目標達成のための手段を開発・選択していけばよいのです。やらされる研究では，徒労感ばかりが増すものです。授業研究を通し，成果を糧に，課題を把握して改善をしていく気持ちが大切です。**少なくとも研究授業のためだけ等の特別な準備はやめましょう。**

## Ｑ１１　授業研究はどの国でも前から行われているのですか。

Ａ：　授業研究が行われてきたのは日本だけだと言われています。日本では明治以降，各学校において新しい近代教育制度が始まりました。そして各学校では新しい教育を理解し実践していくための校内研究体制が組織され，明治３０年代には授業批評会という形で授業研究が各学校に制度的に位置づけられていたと言われています。

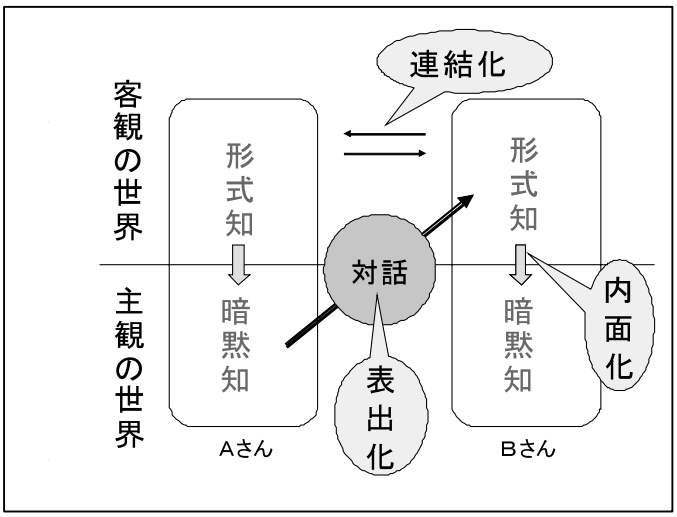
その後，時を経て１９９５年の国際学力調査の際の，中学校２年生の数学の授業のビデオ分析を契機に，日本の授業研究に注目が集まり，１９９９年頃より日本型の授業研究がアメリカで始まりました。そして，アメリカではレッスンスタディ（授業研究）として，２００４年には３２州１２５校のレッスンスタディグループへ広がっています。

**日本の強み＝授業研究の文化があって，授業力を伝承する素地が整っている。授業研究をやることで，教師としての力が伸びることを体験的に知っている。**

＊参考文献　『授業の研究教師の学習　レッスンスタディへのいざない』
（秋田喜代美　キャサリン・ルイス編著　明石書店　2008）

## Ｑ１２　授業研究をしてどうなるのですか，授業研究の意義は。

Ａ：「授業研究は，授業を共同で考察の対象として，参加者それぞれの発見や考察を交流して学びあう機会」（『授業研究入門』稲垣忠彦・佐藤学　著　岩波書店　1996）です。組織マネジメント理論の暗黙知と形式知の関係で，授業研究の意義を考えてみましょう。



授業研究を通して**Ａさんの暗黙知を表出化（言語化）**することでBさんに理解してもらい，Aさんの暗黙知がBさんの形式知として育まれます。このようにして獲得されたBさんの形式知は，自分のものとしてBさんの中に採り入れられ，**Ｂさん個人の中では新たな暗黙知として内面化**されていき，自分の財産となっていくのです。そして，この時に，Bさんに獲得されたAさんの形式知は，Bさんだけでなく**教職員全体で相互体系的に結び付けられ（連結化）**，学校の財産となっていくのです。

確かにAさんの素晴らしい教育観や授業技術等は，完全に形式知化できる程単純なものではないかもしれませんが，少なくともコミュニケーション不足や世代間ギャップが課題となっている学校現場において，**授業研究という対話を意図的に創り出し，授業力を伝承していく活動は意義のあるもの**だと考えます。

## Ｑ１３　授業研究を実施する場合にどんなことに気をつけたらいいのですか。

Ａ：　平成２０年度の全国学力・学習状況調査の「学校に対する質問紙調査」によると，成績上位だった県が必ずしも授業研究をたくさん行っている（年間１５回以上等）方ではないという結果がでています。回数ももちろん大切ですが，やはり**授業研究会の質が大切**です。授業力を高めるための授業研究は，課題をきちんと指摘し合って，ではどのようにすればよいかを**討論していく文化**が大切です。そのためにも**何でも言い合える関係性**をいかに構築していくかが鍵です。このような点からも，現在注目されている新しい授業研究の方法がありますので，Ｑ１６を参照してください。

## Ｑ１４　「授業研究の視点を決める」ということをよく聞きますが，どのようなことですか。

Ａ：　本来は，あらゆる角度から，提案された研究授業について協議していくことが望ましいですが，物理的にもそれは無理です。そこで，研究の視点をあらかじめ設けて授業研究に望むことが大切です。例えば次のような視点が考えられます。（北神正行　岡山大学教授による平成１７年度県立学校研修主任等研修　講義資料より）**視点を何点かに絞ることによって，協議の柱も明確化し，具体的な改善策の提案ができます。**

①子どもたちは，どのような学習過程を組んだとき意欲的な学習をするか。
②子どもたちは，どのような学習活動で意欲的な取り組みを見せるか。
③子どもたちは，どのような条件を備えた教材・教具・資料によって興味・関心を高め，理解を深めていくのか。
④子どもたちは，教師のどのような働きかけによって力づけられ，自信を持って学習するか。
⑤子どもたちは，どのような評価活動によって，理解を深め成就感を得るのか。

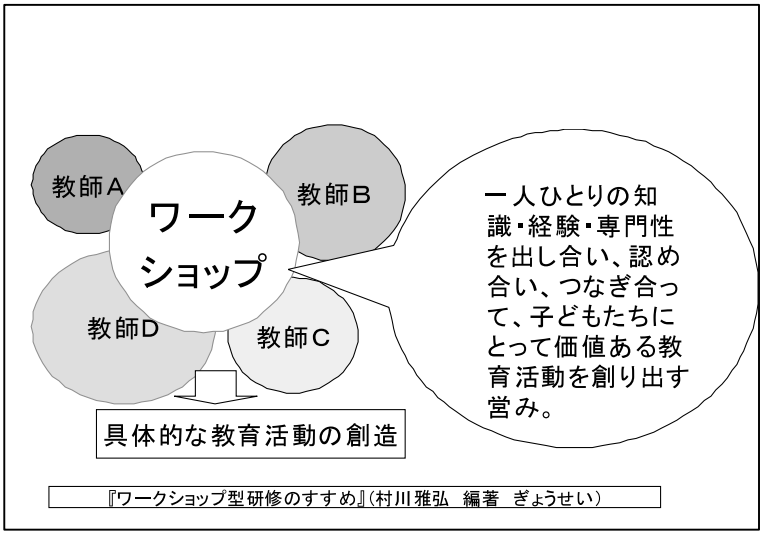
## Ｑ１５　授業研究の時間を確保することが難しくなっています。何かよい方法がありますか。

Ａ：　本来は，お互いの授業を参観し，時間をかけて協議できればよいのですが，現在の学校は多忙でなかなか研修時間が確保しにくいという声を聞きます。大事なことは，リアルタイムでなくともビデオ等を用いて録画して，**時間の都合のつきやすい放課後や長期休業をうまく活用す**ることです。例えば，放課後に，録画した授業について２０分程度の，みどころにしぼって全員で視聴し，授業研究を行うことも可能です。確かに限られた角度からの撮影になりますが，逆に視点がしぼられるため，焦点化した協議が可能となります。また，同じ教材で実施した別々の教員の授業を比較することも可能です。

あるいは，学年会や教科会などの少人数単位で授業研究を重ねていくことも有効です。従来のやり方にとらわれずに柔軟に実施してみましょう。

## Ｑ１６　参加型の研修がはやっていますが，新しい授業研究の方法を教えてください。

Ａ：　これからワークショップ型授業研究の紹介をします。ワークショップとは，もともとは「仕事場」「意見を交換したり，技術の紹介をしたりする研究会。研究集会」（学研現代新国語辞典）を指す言葉ですが，近年，「**教師が互いの経験や知識を出し合い，認め合い，つなげ合って，子どもにとって価値ある教育活動を創り上げていく営み**が求められ」，学校教育において研修等に盛んに取り入れられてきています。




ワークショップ形式の授業研究の方法を簡単に紹介すると，付箋をあらかじめ配っておいて，参観しながら良かった点と気になった点を色の違う付箋紙にそれぞれ３枚ずつを目安に書いてもらいます。授業研究は４～６人程度の小グループに分かれ，ＫＪ法を用い成果と課題をグルーピング・タイトル付けする作業をとおして，課題に対する改善案をグループのメンバーで話し合って第３の付箋紙に記入・提案してもらい，全体で共有化していきます。以下は，従来の授業研究で行われてきた協議方法と比較検討したものです。

## 授業研究スタイル比較表

| | 従来型授業研究 | ワークショップ型授業研究 |
|---|---|---|
| メリット | ・自由発言または一人一発言<br>→よいところを見つけてねぎらう<br>（例）「…がよかったです。」<br>「…をまねしたいです。」<br>「…が参考になりました。」<br><br>・良い点を中心にコメントされるので，**感覚的に良い授業だったという評価**になる。 | ・付箋の記入→参画意識の高まり<br>授業の振り返りが可能<br>明確な批評言の確立<br>・付箋の貼り付け→自分の考えの表出<br>・付箋の重なり→意見交換<br>**妥当な評価**<br>**焦点化した協議**<br>・短時間で多面的な授業分析・評価<br>・小グループ協議（良い点・課題・改善点）<br>→発言の機会の保障<br>→参加者の主体的な協議 |
| デメリット | ・活発な協議にならないことが多く，司会者の負担が大きい。<br>→（例）「それでは順番に‥」<br>・授業者との人間関係を考慮して遠慮がちにコメントする。**課題の指摘はしづらい。**<br>・自由発言の場合，発言する人や内容に偏りが生じる。<br>・思いつき的な発言になりがち。<br>→（例）「うまく言えないですが…」<br>・人とあまり重ならないようにという意識が働き，後の人ほど発言しづらい。<br>→（例）「みんな言われてしまって‥」<br>・出た意見をまとめきれない。個々が気づいたことを言って終わりがちになる。 | （ワークショップ型授業研究に慣れない場合）<br>・付箋に何を書いたらよいか迷う。<br>・協議の進み方がイメージできない。<br>・付箋のまとめ方やタイトル付けに困る。<br>・リーダーが決まっていないと，グループ協議が活発化しない。<br>・協議時間が限られているので，良かった点よりも課題や改善点中心の協議になってしまう。 |

このように，従来型の授業研究では，協議を活性化するためには司会者の手腕にかかる部分が大きいのに対して，ワークショップ型授業研究では，付箋が対話の役目を果たし，自然な形で教員相互の意見交換が生まれ参画意識を高めるのに適していると考えられます。

また一方で，今日，多忙化する学校現場において，いかに効率的に授業研究を継続させ，その中で最大の効果を得るかがポイントになってきていますので，**参画意識を高め効率化をはかる上でも，このワークショップ型の授業研究は有効**だと思います。

＊参考文献　『授業にいかす教師がいきる　ワークショップ型研修のすすめ』
（村川雅弘　編著　ぎょうせい　2005）

**Ｑ１７　ワークショップ型授業研究を行う場合に，何か準備するものがありますか。**

Ａ：準備物は以下のものが必要です。

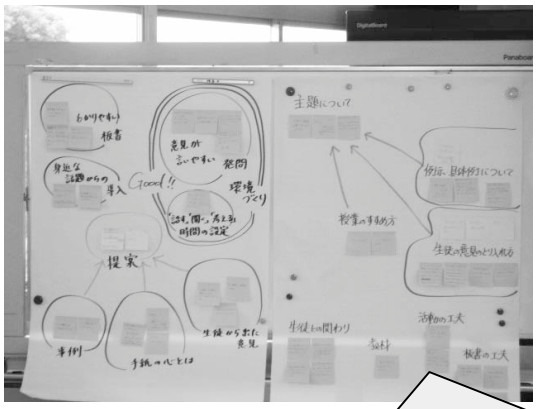
- **付箋**（7.5㎝×5㎝，7.5㎝×7.5㎝等の大きめのものが使いやすい。）
  **＊付箋記入にはフェルトペンを用いると遠目でも文字が読みやすい。**
- **マジック等**（タイトル等の書き込みに使用。太めで複数色あるとよい。グループ分必要。）
- **黒板あるいはホワイトボード等**（全体会で説明する時に模造紙を貼り付ける。）
- **模造紙１枚がおける広めの机**（グループ分）
- **模造紙**（グループ分必要。）
  ＊保存等の利便を考えＡ３用紙を使う場合は，7.5 ㎝×2.5 ㎝等の小さめの付箋を使い，成果と課題に分けてＡ３用紙を複数枚使うと良い。

**また模造紙上で付箋を整理する場合は，以下のようなパターンが考えられます。**

**①項目別で整理する場合**

よかった点

気になった点

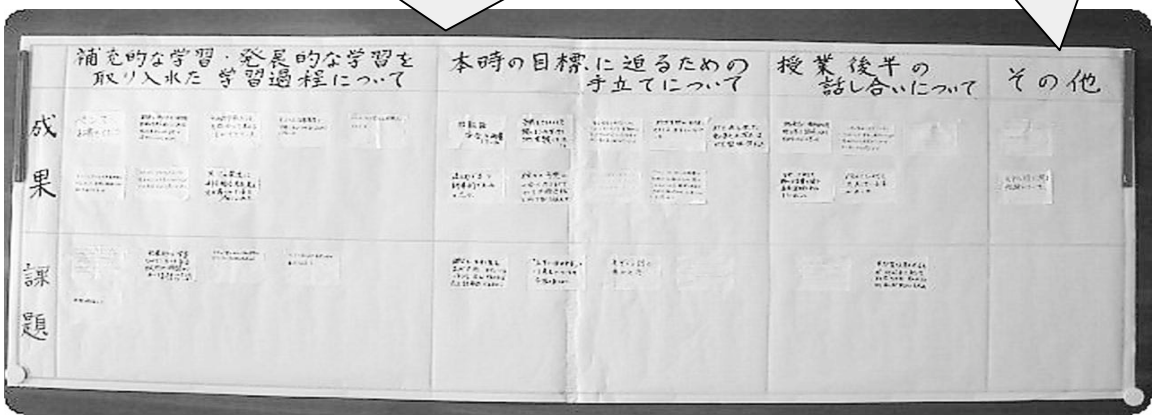


良かった点：青　気になった点：ピンク
改善点：黄色　２ｸﾞﾙｰﾌﾟ分の実践例

**②授業者設定の視点（学校の研究テーマ等に関連して）で整理する場合**

あらかじめ視点を３点決め，それについて整理した実践例
成果：黄色　課題：ピンクの付箋

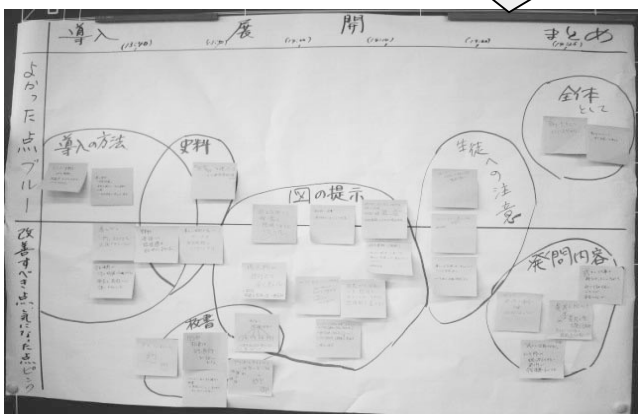
その他：参観者が自由な観点で気づいた点



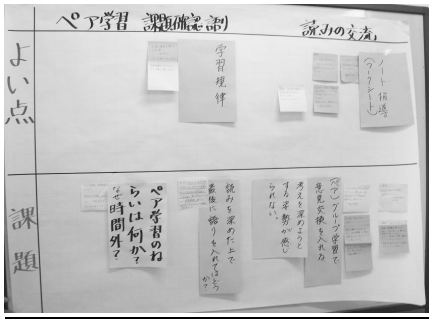
時間の近いところでグループ化する。どこに改善部分があるのかがよくわかり，焦点化した協議が可能。

③時系列で整理する場合（付箋にも記入した時刻を記す）

| | 導入 | | 展開 | | まとめ | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 14:00 | 14:10 | 14:20 | 14:30 | 14:40 | 14:50 |
| 良い点 | | | | | | |
| 改善点 | | | | | | |




④場面ごとに整理する場合

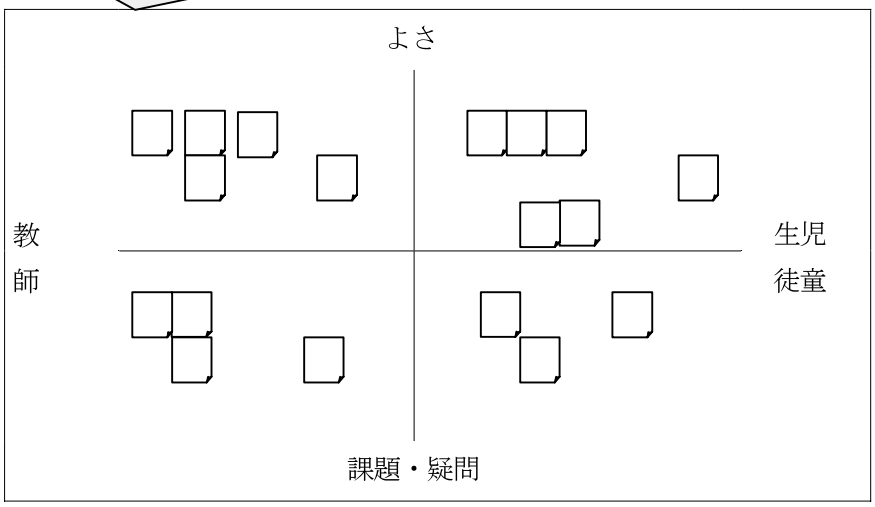



授業の場面ごとに，よかった点と課題を整理し，大きく短冊に項目を書いて模造紙に貼りつけ，さらに，改善点については具体的な提案を短冊に書いてもらった実践例。

⑤模造紙によさと課題・疑問，児童・生徒と教師の軸を予め書いておき整理する場合

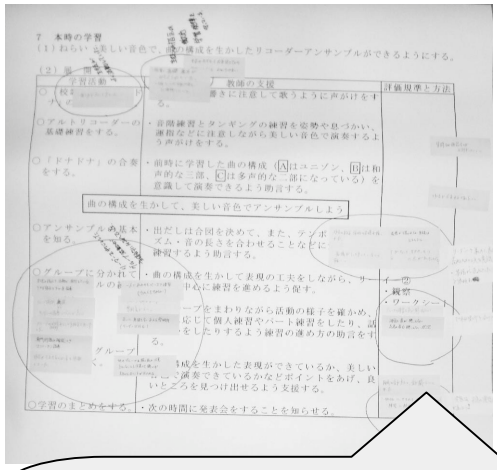
（付箋は一色でよい。改善策については，別の色の付箋紙を利用したり，直接書き込む。）

横軸は研究の視点（２観点まで），縦軸は成果（プラス）と課題（マイナス）にすることも可能。



⑥　その他（独自に様々なバージョンの台紙を工夫）

研究部で事前に学習指導案を拡大コピーして指導案の流れを貼り付けて作成した模造紙。



学習指導案を模造紙大にコピーした台紙。授業の展開に即して付箋を貼り付け改善案も示す。

## Ｑ１８　ワークショップ型授業研究をどのように進めればよいですか。

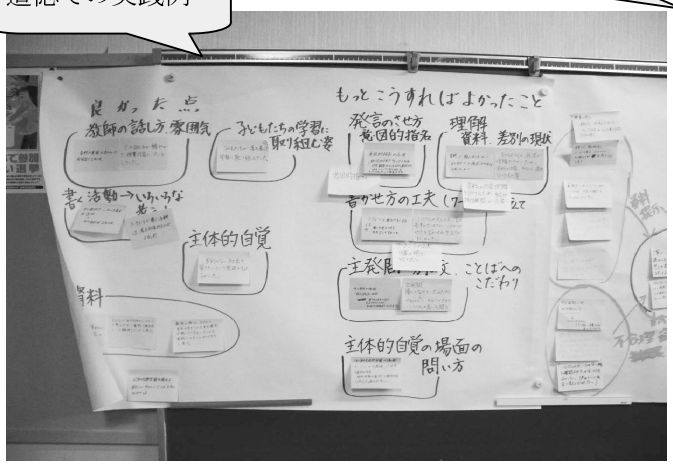
Ａ：　以下の展開例を参考にしてください。あわせて配布資料等もあげておきます。

| 場面 | 時間の目安 | 手　　順 |
|---|---|---|
| 授業参観前 | | ①事前にプリントを配布し研究授業・授業研究の要領の説明をする。（事前配布プリント例参照）<br>②付箋（ブルーとピンクを多めに５枚ずつ）もプリントにつけておき配布する。 |
| 授業参観中 | | ①学習指導案に「授業（研究）の視点・観点」等が示されている場合は，その視点・観点等に着目して授業参観する。（事前に参観者にも連絡しておく。）<br>②参観しながら付箋に記入する。（付箋の書き方・タイトルの付け方例参照）<br>・付箋１枚につき１項目。<br>・時系列に整理する場合は，付箋に時刻もメモしておく。<br>・ブルー（よかった点）とピンク（気になった点）を３枚ずつ書く。<br>・付箋の色は意味づけるとわかりやすい（今回は信号機のイメージとした）。<br>③参観と同時に書くのが難しければ，あとで記入してもよい。<br>（できれば，授業研究の前に10分程度付箋記入の時間を確保できればなおよい。） |
| | ５分 | ①授業者による自評（授業についての感想や意見・助言をもらいたい点等）<br>参観者は授業者の自評を聞きながら付箋に追加記入してよい。 |

| | | |
|---|---|---|
| 授業研究<br>50分 | 15分 | （授業者は，ブルーとピンクの視点で自己評価したものを付箋に記入し一緒に参加してもよいし，各グループを自由にまわってもよい。）<br>②４人～６人程度のグループに分かれグループ作業に入る。<br>③各グループのリーダーから短いコメントとともに付箋を模造紙に貼り付ける。まず良い点から始め，良い点がグルーピングできたら，気になった点についてグルーピングしていく。<br>④付箋の出し方については，まずリーダーが出し，他の人は，同じような項目の付箋を持っている場合は，各人が積極的にそれを出し，リーダーの付箋に付け加える形をとる。<br>⑤グループ全員の付箋を貼り付ける。その際，お互いに多少の質問はよいが，批判的な発言はしない。<br>⑥出された付箋紙全体をみて適宜移動させ，同じようなものをマジック（良い点と気になった点について色を分ける。）でグルーピングし，簡潔なタイトルをつける。　その場合，「〇〇な板書」のように簡単な説明もつけるとよい。<br>⑦まとめられない付箋については，そのまま残しておいてよい。<br>⑧グループごとの関連を考え，矢印で結んだり対立記号をつけたり，グループ同士をさらに大きなグループにまとめたり，構造化していく。 |
| | 10分 | ⑨研究の視点に関することと授業者が意見をもらいたい点について，グループとして の具体的な改善案を黄色の付箋に書く。<br>（まず個々に１枚ずつ書きそれをまとめてもよい。） |
| | （５分程度） | ⑩各グループで出た意見の中で，研究の視点に関することと授業者が意見が欲しい点を中心に，リーダーが全体の前で発表する。重複している場合は省略する。<br>（グループ数×１分を目安に。）<br>（グループ数が多い場合は，コメントを書いてもらい，後で全員に配布する等工夫する。） |
| | 10分 | ⑪研究の視点に関することと，授業者が意見が欲しい点に絞って全体で協議する。<br>（自由発言とするが，発言がでにくい場合は，特にグループによって対立した見方や面白い見方・参考になる見方があれば，掘り下げて聞くなどグループ発表を活かす。あるいは，グループの提案に対する授業者からの質問等も考えられる。） |
| | 3分 | ⑫授業者が今後の授業に活かしたいことという視点でコメントする。 |
| | 2分 | ⑬各自が今日の授業研究を通じて，自分の授業づくりに参考になった点などを含めて感じたことを振り返りシート（**振り返りシート例参照**）に記入し授業研究用ファイルに蓄積していく。研究部による授業研究の記録が整理された後に，良かった点についての付箋紙を授業者に渡したり，プリント等にまとめて，全員に配布・蓄積してもらう等の工夫が考えられる。 |

多忙化の中で継続しやすいように，授業研究は 50 分設定にしています。45 分の場合は，グループ協議時間を短縮し，あわせてグループ人数を４名程度にする必要があります。モデルを参考に，各学校で授業研究の目的に応じた形態を工夫していくことが必要です。

道徳での実践例




研究主任のポイント

・共通認識を持つために，授業研究の目的・時程・進め方・座席（グループ）・連絡等について，研究部で事前に打ち合わせを行い，**研究部員が各グループにリーダー（司会）として入り，全教員にはプリント等にまとめ事前の職員会議等で説明**しておく。

・事前に必要に応じて**係分担を明確に**し，全教職員の協力態勢をつくる。

・**タイマー等を利用**し，限られた時間を有効に使うようにする。

・**授業者が意見や助言をもらいたい点**などについて，**予め打合せ**を行い，全体協議の方向性を確認しておく。

・研究協議の成果と課題をまとめて配布するなど，次の授業研究につながる工夫をする。

**【例①：事前配布プリント】**

## 研究授業・授業研究のお願い

付箋を用いた授業研究を行いますので，以下の要領の確認をお願いします。

【研究授業中】

・付箋の記入（参観しながら書けなければ，授業研究前の休憩時間でもよい。）

　１枚に１項目。（ブルー：良かった点，ピンク：気になった点）３枚ずつを目安に書く。

・研究の視点に沿って授業を観察するようにしてください。

・授業者も自己評価して授業研究までのところで書き，協議に参加されても構いません。

【授業研究】

１）１６：００～１６：０５（５分）授業者から（感想，意見をもらいたい点等）

２）１６：０５～１６：２０（15分）

①良かった点について，リーダーを中心に各自が付箋を模造紙に貼り付けながら，自分の考えを説明する。続いて気になった点も同様に貼り付け説明する。

②ＫＪ法で協議し，まとまりごとにタイトルを付けたり，関連性をみて構造化する。

（ＫＪ法：裏面参照）

３）１６：２０～１６：３０（10分）

③研究の視点に関することと，授業者が意見をもらいたい点について具体的な改善案を各グループで黄色の付箋にまとめて書く。（まず個々に１枚ずつ書きそれをまとめてもよい。）

４）１６：３０～１６：３５（５分）

④各グループで出た意見の中で，研究の視点に関することと授業者が意見をもらいたい点を中心に，リーダーが全員の前で発表する。重複する部分は省略する。（グループ数×１分）

（協議終了後，模造紙を各自で見てください。）

付箋も多めに５枚ずつこの用紙に貼り付けておく。

５）１６：３５～１６：４５（10分）

⑤研究の視点に関することと，授業者の意見が欲しい点について全体で協議する。

６）１６：４５～１６：４８（３分）

⑥授業者が今後の授業に活かしたいことという視点でコメントする。

７）１６：４８～１６：５０（２分）

⑦各自が今日の授業研究を通じて，自分の授業づくりに参考になった点などを含めて感じたことを振り返りシートに記入し授業研究用ファイルに蓄積していく。

裏面にＫＪ法について参考プリントもあわせて印刷しておくと参考になる。

**【例②：事前配布プリント　（裏面）】**

「教職員の手引き　研修の企画・運営　講師のための知識・技術」（独立行政法人教員研修センター　刊　より）

ＫＪ法は，文化人類学者の川喜多次郎氏が発案した収束思考の方法である。様々なデータやアイディアをカードに記入し，それらを共通のものでまとめていき，新たな仮説を発見しようとするものである。手軽に実施できるため，問題解決の手法や情報の収集・整理の手法として広く活用されている。

〈ＫＪ法の手順〉

① 出されたアイディアや収集した情報をカード（付箋紙でもよい）に記入する。

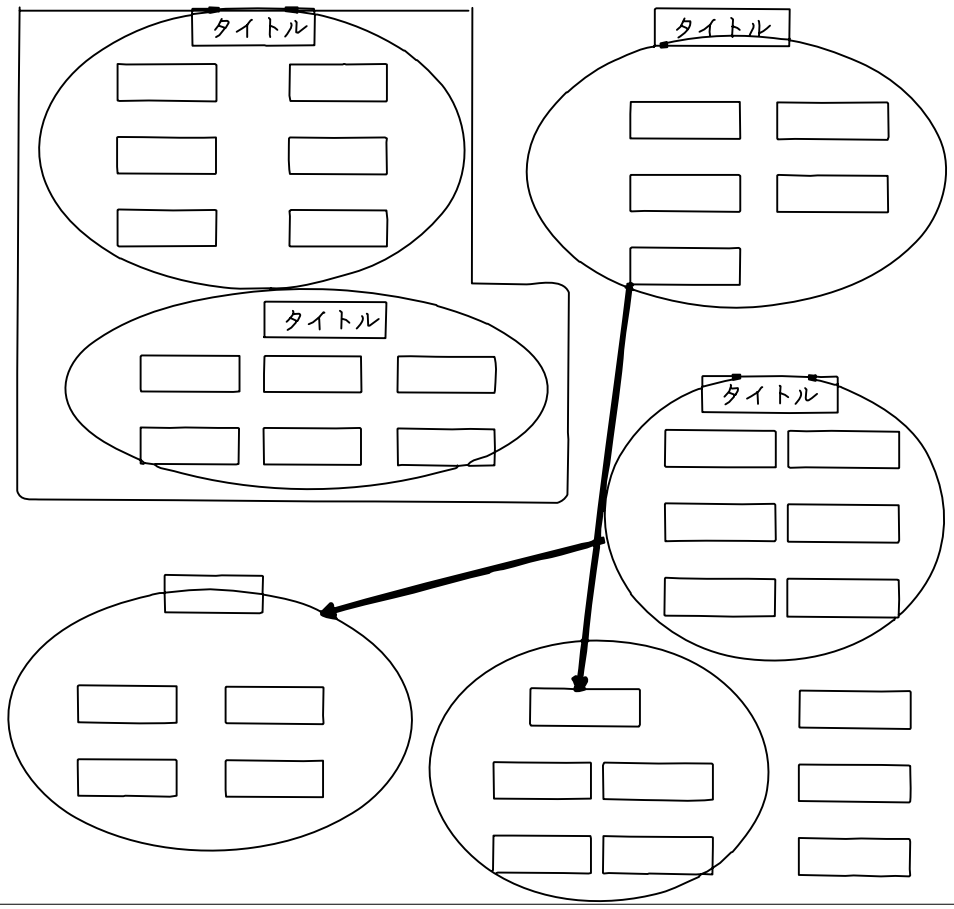
② カードを見て，共通するもの５～６枚のカードをまとめ，タイトルを簡潔な文言でつける。
この時，新たに思いついたアイディアがあれば追加してもよい。また，まとめられないものは，無理してまとめることなく，そのまま残しておいてもよい。

③ さらに小グループを見て，大グループにまとめる。

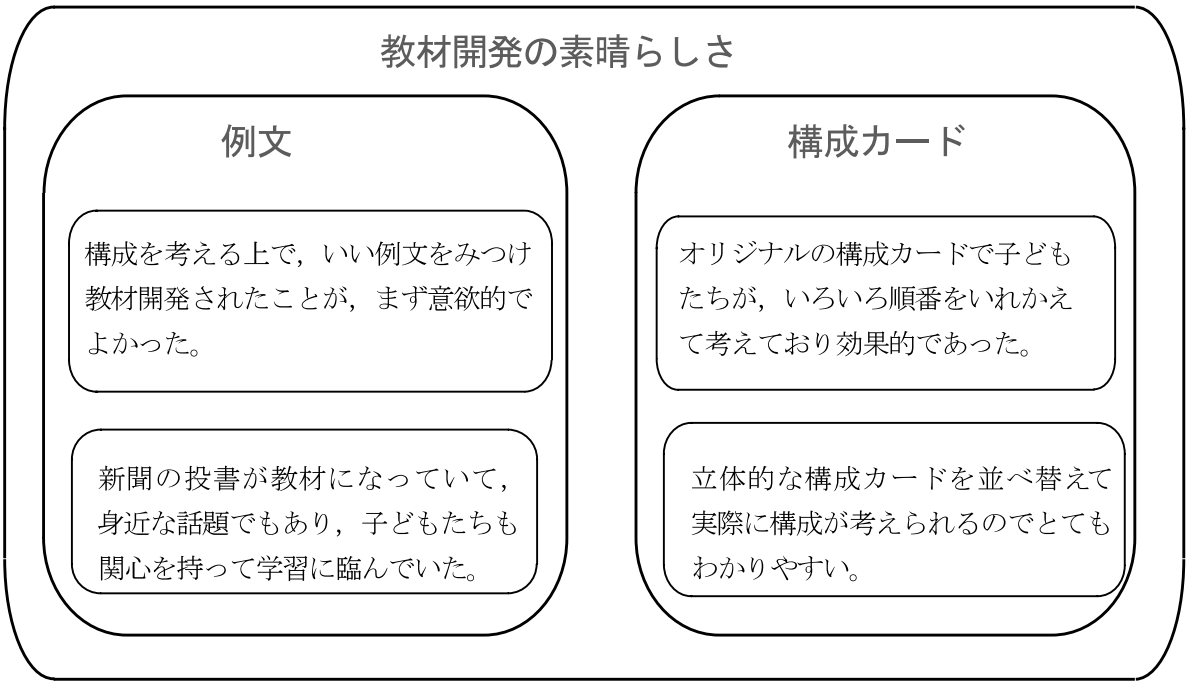
④ グループごとの関連を見極め，矢印で結んだり，太字で強調したりして構造化する。

⑤ 最後にそれらからわかったことなどを文章化してまとめる。

【ＫＪ法の例】



**【例③：付箋の書き方・タイトルの付け方】**　＊付箋は横書きに統一する。




**【例④：振り返りシート】**

研修の振り返りシート

氏名（　　）

（　　）年（　　）科授業研究

授業者（　　）先生

平成　　年　　月　　日実施

☆私が気づいたのは‥

☆私にとって必要だとわかったのは‥

☆私がこれから実行しようと決めたことは‥

☆その他考えたこと，書いておきたいことは‥

**・「授業者への言葉のプレゼント」**

研究の視点以外の気づきや感想・励まし等のコメントを封筒に集めて，授業の翌日か数日後に授業者へ「言葉のプレゼント」として渡している。

**・「キーワードの入力」**

研究協議等を通し課題として見えてきたことをキーワードとし，各自が３つ選んで理由とともに共有パソコンに入力し課題を共有化するとともに次回の研究授業に活かす。

## Ｑ１９　全国的にどのような校内研修が行われていますか。

Ａ：　少人数研修や学校を越えた新たな研修の創出，また，学校内で取り組みやすい研修方法や目標達成のための道筋を考慮した組織編成など参考になる点が多々あります。

| 学校名 | 実践例 |
|---|---|
| 東京都立<br>立川高校 | **・非常勤教員も含めた全教員が３人一組で教科の枠を超え，互いの授業を見学**<br>・他の授業での生徒の様子や他の教員の授業構成，生徒の動かし方等の良い点を見つけ，自分の授業に生かす。<br>**〈少人数研修の効果的運用〉**　＊月刊『高校教育』2008, 12 |
| 埼玉県立<br>杉戸高校 | **・授業第一主義を掲げ，教員の授業力と生徒の学習力を同時に高める**<br>＊授業話法に関する職員研修会の開催<br>＊授業規律と授業姿勢をつくることを目的とした研究授業週間の開催<br>＊校長が生徒の立場で授業を受ける「授業ノート」の取り組み<br>**・「授業フェア」‥同校教諭１０人の公開授業＋他校教諭等１４人の公開授業＋教科ごとの分科会**<br>＊授業参観シート項目‥二人分記入して提出「授業力解明ノート」<br>・気付いた技（方法）学んだ技（方法）＊教員記入<br>・この授業を参観して最も大切だと思った「授業力」とは＊教員記入<br>・この授業でよかったこと　＊生徒記入<br>＊分科会の運営方法<br>研究協議Ⅰ（４０分）<br>①授業者より　本日の授業における「ねらい」，理解・定着について<br>授業で行っている「理解と定着」に関する工夫・技術など<br>②質疑応答<br>・教科において生徒に「理解させる」とはどのようなことか<br>・教科において生徒に内容を「定着させる」とはどのようなことか<br>・生徒を授業に引きつける工夫，意欲を引き出す工夫にはどのようなものがあるか<br>研究協議Ⅱ（３０分）<br>①教科において必要とされる「技量（技術・腕）」とは何か<br>②教科で行っている工夫　③各校で行っている取り組み<br>**〈学校を越えた「授業フェア」という全く新しい形の研修の創出〉**　＊月刊『高校教育』2008, 6 |
| 金沢市立<br>明成小学校 | **学校内で実務を通じて人材を育成する体制（ＯＪＴ）づくりのための３つの方策**<br>・「明成塾」毎週水曜日４時３０分～５時　職員室の教師コミュニティー<br>実践した授業のビデオ視聴によるディスカッション<br>・「授業力向上外部評価委員」の活用　委員は４人の退職校長に依頼（前・後期の二回全クラスの授業参観・個別指導）<br>・「校内理科実技研修会」　月１回開催　理科担当や管理職が講師を務める　理科の指導に苦手意識を持つ教員が多いため<br>**〈実務を通じた人材育成〉**　＊『内外教育』時事通信社　2008, 12, 9 |
| 長崎市立<br>稲佐小学校 | **4/3　転任者を交えての校内研究会**<br>・研究主任による昨年度の成果と課題の報告，今年度の研究の方向性と内容の説明<br>**・付箋記入「各自が大会までになすべきこととしたいこと」**<br>**・６人ずつの３グループによる協議→六つの課題**<br>「学びを深める学習規律および授業づくり」「子どもの学びの姿の評価」<br>「省エネ共和国のアピール」「学習・学校環境整備」<br>「地域とのかかわり」「研究体制の充実」<br>**・３人ずつの６チームに分かれ，具体的なアクションプラン作り**<br>（例）「研究体制の充実」チーム<br>マトリックス型のワークシートにすべきこととしたいことの記入<br>横軸　「研究体制」「職員の結束」「役割分担」<br>縦軸　「一学期」「二学期」「三学期」<br>・３分ずつ６チームの発表<br>・「全小社研に向けての研究組織（案）」<br>「校内研修年間計画」「学習規律・授業づくり班」「学習環境班」「小エネ共和国班」「評価班」「運営班」<br>11/10 全国社会科研究会長崎大会　会場校<br>**〈参画意識を持って研究に取り組む組織編成のアイディア〉**　＊月刊『悠』ぎょうせい　2006, 5 |

## Ｑ２０　小規模中学校のため，教科の研修がなかなかできません。何かよい方法がありますか。

Ａ：　全国的にも，教科を超えた視点での授業研究が広がってきています。次に紹介するのは，教科の枠を超えて授業についての話し合いを続けている県内中学校の事例です。

〈平成１９年度小・中学校研究主任等研修　実践発表資料　より抜粋〉

〈研究内容・方法〉

○全員が研究授業をする。

・教科の指導についての研究授業ではない。

・授業研究の視点は，「生徒がかかわりを持っていたか。」

・ビデオによる授業研修をし，焦点化と効率化を図る。

・授業内容や生徒の反応について，生徒指導上の問題は後回しにする。言葉遣いや態度よりも学ぼうとする姿勢があるかどうかを話し合う。

・生徒のよい点については，授業研究に参加した教員が直接「あのときの発言はよく気がついたね。」などと言って褒める。

・指導案（活動案）は，非常に簡単なレシピとする。授業の流れよりも，生徒の姿，教師と生徒のやりとりについて話し合う。

「専門外なのでわかりませんが‥」は禁句にしましょう。

〈研究の成果と課題〉

・教職員アンケートの結果では，授業研究についてほとんどの教員が他教科の取り組みや生徒の様子がよくわかったと感じていた。他教科での工夫がビデオで紹介されることによって，自分の授業でも取り入れてみようとする教員が多かった。

・授業後の研修会では生徒の様子を中心に話し合った。ビデオ研修なので細かい生徒の姿がわかりにくく，教師のかかわり方については十分な話し合いができなかった。また，研修会の時間をもっと多くとってほしいという意見もあった。

このように，教科の枠を超え，**生徒の学びの姿を共通の視点として協議**を続けている学校があります。また，**近隣の小学校や高等学校など異校種との連携の視点**で授業研究を行って成果を上げている地区もあります。地域の中で教科ごとの協議会を持つことができるとよいですね。

Ｑ１８で紹介したワークショップ型授業研究の展開例は，初めての方でもこれを見ながらできるように作成しましたので，ぜひ参考にして教科を超えて実施してみてください。

**○教科の専門性を超えて授業研究を**

・「他教科からの異なる視点がとても新鮮であった。」

・「生徒の学びに視点をあてて協議でき，授業作りの参考になった。」

**○異校種で授業研究を**

・「お互いに授業を見るだけでなく，協議することで，児童・生徒の学びの連続性がわかり指導の見通しがもてた。」

「子どもの発達段階に応じた指導方法がよくわかった。」

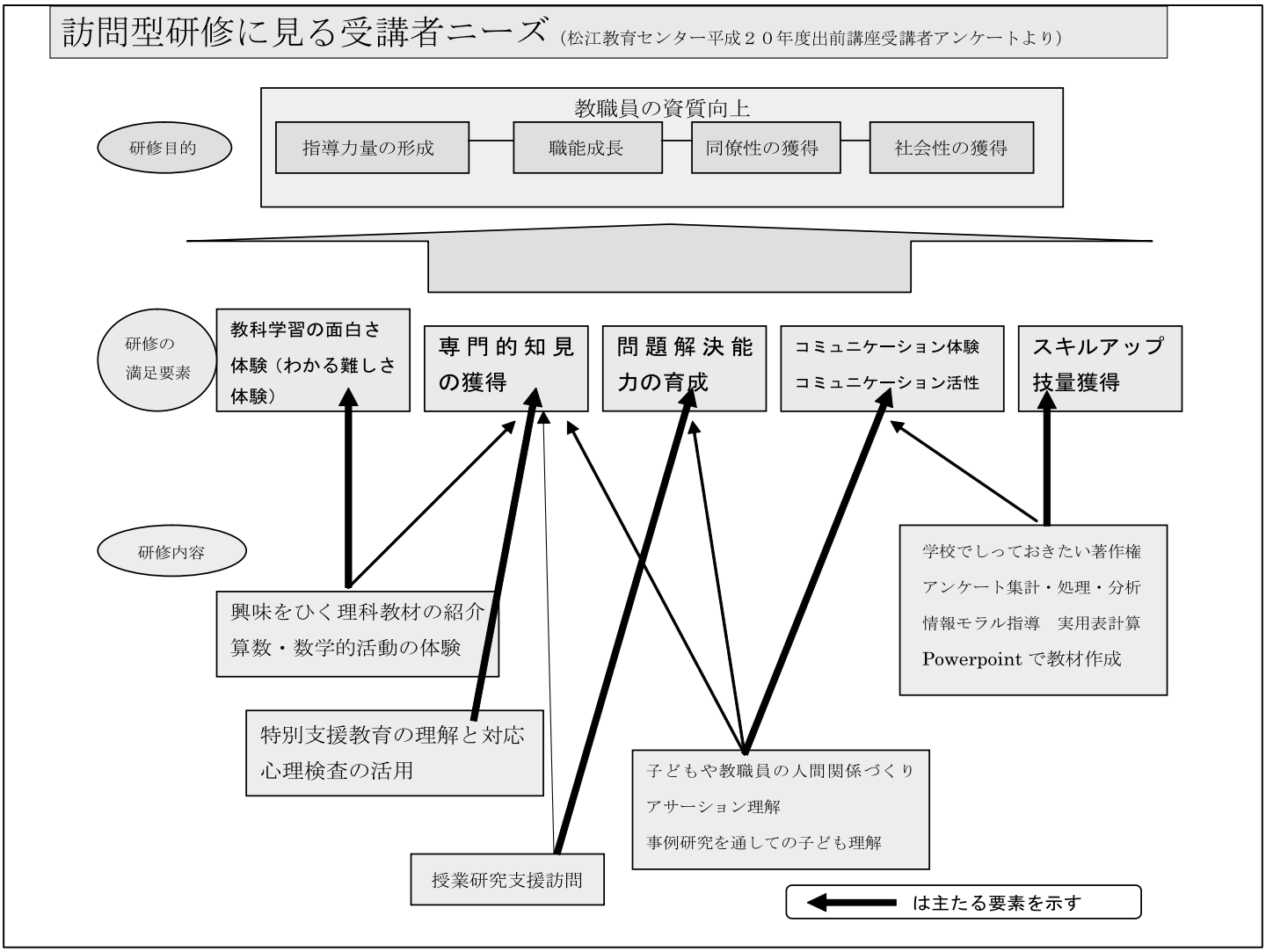
**Ｑ２１　校内研修会を企画する上で，参加意欲を高めるために何かよい方法がありますか。**

Ａ：　確かに，様々な役割を持つ教職員集団において，研修に関するニーズは多種多様です。**前年度末の学校評価結果や年度当初のアンケート調査等で個々の教職員のニーズを把握**する必要があります。また，**学校教育目標達成のための学校課題をよく見極め**た上で，計画的・継続的に研修を企画していく必要があります。

また，参加の形態として現在流行しているのが，ワークショップ型の研修です。これについては，Ｑ１８で述べましたので参考にしてください。

さらに，次は，松江教育センターが平成２０年度に行った出前講座の受講者アンケートより，満足度の高かった要素を抜き出し，「訪問型研修に見る受講者ニーズ」についてまとめたものです。

様々な研修内容がありますが，研修のどのような点がよかったかを見ていくと，おおむね５つの「研修の満足要素」がありました。また，研修内容に対して複数の満足要素があることもわかりましたが，主要な要素（太線）というものがあり，**何をねらいとした研修を企画・実施していくのかの構想が大切**となります。



また，**参加者自身の「やらされている」意識から自ら「やる」意識作りが大切**です。そのために自己のライフプランに応じた研修を考えていきます。その一つの手立てとして次のような２つのシートを利用して，各自の「身に付けたい力」を把握し，同じような課題を持つ人を小グループに分け一年を通して継続的に同じ課題を持つ同僚同士で研究を継続する方法も有効です。

**振り返りシート（例）**　　氏名（　　）

テーマ　「授業力の向上のために」

| 年 | Ｈ２ | Ｈ３ | Ｈ４ | Ｈ５ | Ｈ６ | Ｈ７ | Ｈ８ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年齢 | ２３ | ２４ | ２５ | ２６ | ２７ | ２８ | ２９ |
| 研修内容 | 初任研 | 英語科教育講座 | 生徒指導実践講座 | | | ６年研 | |
| 仕事の履歴 | Ａ校<br>学年付き<br>１年部<br>教務部<br>陸上部<br>副顧問 | 学級担任<br>１年<br>教務部<br>陸上部<br>副顧問 | 学級担任<br>２年<br>進路指導部<br>パソコン部<br>正顧問 | 学級担任<br>３年<br>進路指導部<br>パソコン部<br>正顧問 | Ｂ校<br>学級担任<br>１年<br>総務部<br>ソフトテニス部<br>副顧問 | 学級副担任<br>２年<br>総務部<br>ソフトテニス部<br>正顧問 | 学級担任<br>３年<br>保健部<br>ソフトテニス部<br>副顧問 |
| （成果）身に付けた力 | 基本的な授業の仕方や日常業務能力<br>社会人としての基礎力<br>時間割の編成 | 英語Ｉのリーダーとして進度調整<br>生徒とのコミュニケーション | 保護者への対応 | 進学についての指導力 | 学校行事についての段取り | ６年研で生徒指導を中心に研修<br>部活動保護者への対応 | 生徒理解が深まった。 |
| （課題）身に付けたい力 | 教科指導力 | 保護者との上手な関係作りの力 | 情報処理能力 | 就職等幅広い進路指導力 | ソフトテニス部を指導できる力 | 学校の沿革など地域とのつながり | 学校保健についての基礎知識 |

# プランニングシート

氏名（　　）

（昨年度）自己研修等

（今年度）学校教育目標

（今年度）身に付けたい力〈個人〉

| （昨年度の）仕事の概要（担任・校務分掌・顧問　等） | |
|---|---|
| | |
| 成果 | 身に付けた力 |

**具体的な取組・研修**

・いつ

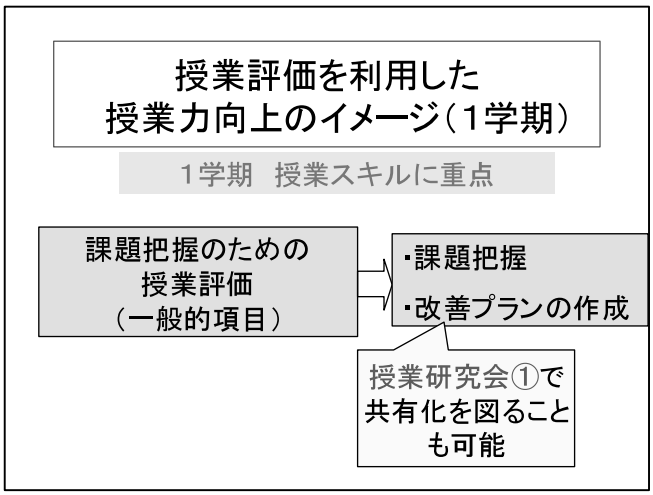
・どこで

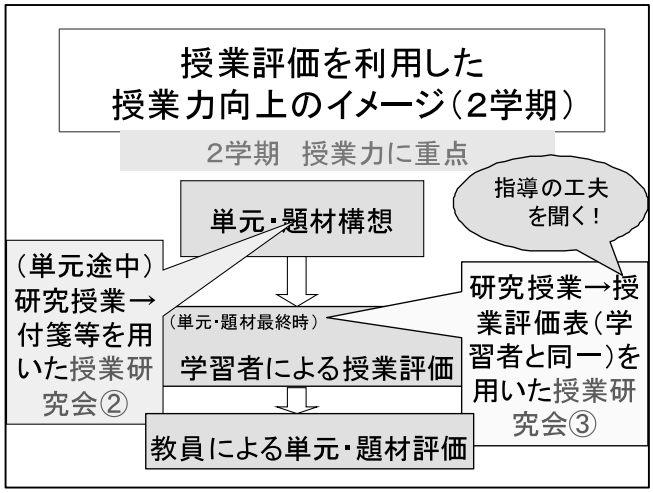
・何を

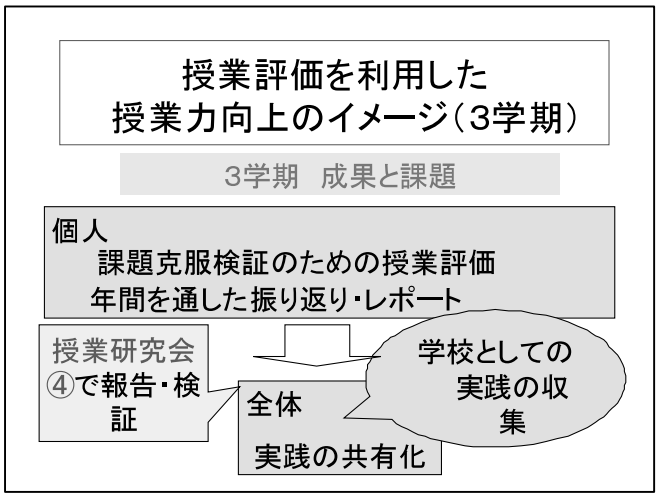
・どのように

## Ｑ２２　授業評価を授業改善につなげるためにどのようにしたらよいですか。

Ａ：まずは個人で授業改善に向けた授業評価に取り組み，さらに，**個人の授業評価を学校全体の授業研究で共有する**ところまで持っていくとよいと考えます。右図は学期ごとに授業評価の重点を変えたイメージ図です。




１学期は**授業スキルに重点**を置きます。個人が**一般的項目（「先生の説明はわかりやすかったですか。」等）で，基本的課題把握のための授業評価**を行い，自己課題を明確にした上で，研修のアクションプランを作成します。個人で終わらせずにそれを研究職員会等で共有化し，同じ課題を持つ人ごとに小グループに分かれて今後の研修計画を立案するのも効果が大きいです。そして，ポートフォリオを作成していきます。

２学期は，**授業力に重点**を置きます。**自分の教科指導の工夫を中心に聞きます。（「物語のその後を考えることは，主人公のことを深く考えることにつながりましたか。」等）**。単元の途中では，付箋等を用いた授業研究を実施したり，単元・題材の最終時には，学習者と同一の授業評価表を用いた授業研究を実施することが可能です。授業者が工夫した点や配慮した点について参観者にも理解してもらった上で，観点を絞った協議が可能となります。

３学期は，**この１年の成果と課題をまとめます。授業スキル等についての課題克服の検証のための授業評価を実施**したり，教科の授業力の伸長について**振り返り**を行い，**レポートを作成**します。そして，研究職員会等で今年度の実績や研修内容について，ポートフォリオ等の成果物をもとに発表・報告し共有化し，次年度への改善計画を立てます。一学期に小グループ化した場合は，グループごとの成果発表を行い，小グループごとの成果発表を全体で共有します。次に授業評価表例を挙げます。

## 授業評価の例

【例１：生徒用（全教科共通）】※ 生徒の自己評価（質問１～５）から教員の授業に対する評価（質問６～１０）へ

＊１時間の授業の評価なのか，学期末や単元末のまとめとしての授業評価なのか予め設定し説明する。

**授業アンケート**

年　　組　（ 男 ・ 女 ）

これは，教科担当者が授業をよりよいものにしていこうと，生徒の皆さんから意見を聞くためのものです。従って，皆さんの成績とは一切関係がありませんので，授業について率直な意見や感想あるいは要望などを記入してください。

Ａ　１～10の質問に対するあなたの判断に最も近い数字を〇で囲んでください。
４，そう思う　３，だいたいそう思う　２，あまりそう思わない　１，そう思わない

Ｂ　自由記述欄には，授業について気づいたことや要望，意見などを遠慮なく書いてください。

教科【　　】　実施日　月　　日（　）

| | | 項目 | 数値 |
|---|---|---|---|
| A | 1 | 授業に集中して取り組むことができた。 | ４・３・２・１ |
| | 2 | わからないことを先生に質問できた。 | ４・３・２・１ |
| | 3 | 授業内容は理解できた。 | ４・３・２・１ |
| | 4 | 授業の中で自分の考えをもつことができた。 | ４・３・２・１ |
| | 5 | 授業を受けてさらに関連する内容について調べたいと思った | ４・３・２・１ |
| | 6 | 授業の進み具合は適切だった。 | ４・３・２・１ |
| | 7 | 先生の説明はわかりやすかった。 | ４・３・２・１ |
| | 8 | 板書がわかりやすかった。 | ４・３・２・１ |
| | 9 | 質問等しやすい雰囲気だった。 | ４・３・２・１ |
| | １０ | 面白い授業だった。 | ４・３・２・１ |
| B | 〈　授業への要望や意見　〉 | | |

【例2：生徒用（中学校国語科）】
※この授業・この単元(単元末に単元の評価の観点を加えて実施する場合)ならではの自分の指導工夫について聞く。

**授業アンケート**

年　　組　（ 男 ・ 女 ）

これは，教科担当者が授業をよりよいものにしていこうと，生徒の皆さんから意見を聞くためのものです。従って，皆さんの成績とは一切関係がありませんので，授業について率直な意見や感想あるいは要望などを記入してください。

Ａ　各項目に対するあなたの判断に最も近い数字を〇で囲んでください。
４，そう思う　３，だいたいそう思う　２，あまりそう思わない　１，そう思わない

Ｂ　自由記述欄には，授業について気づいたことや要望，意見などを遠慮なく書いてください。

教科　国語　単元名【「走れメロス」の謎に迫ろう】　実施日　月　日（　）

| | | 項目 | 数値 |
|---|---|---|---|
| A | 1 | 前時の読みについての振り返りによって，本時の課題を把握することにつながりましたか。 | ４・３・２・１ |
| | 2 | 二つ目の謎「メロスを走らせたものは何だったのか」を考えることは，作品を読むことにつながったと思いますか。 | ４・３・２・１ |
| | 3 | 音読（役割読み）を行ったことは，メロスの気持ちを想像することにつながりましたか。 | ４・３・２・１ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 4 | 話し合いでは，質問や意見が言いやすい雰囲気でしたか。 | ４ ・ ３ ・ ２ ・１ |
| | 5 | 板書は，メロスの心情の変化について，わかりやすく表されていましたか。 | ４ ・ ３ ・ ２ ・１ |
| | 6 | 授業の進む速さは適当であったと思いますか。 | ４ ・ ３ ・ ２ ・１ |
| | 7 | 先生の説明はわかりやすかったですか。 | ４ ・ ３ ・ ２ ・１ |
| | 8 | 今日の授業は楽しかったですか。 | ４ ・ ３ ・ ２ ・１ |
| B | 〈 授業への要望や意見 〉 | | |

単元評価の例

【例3：教員用（中学校国語科）】

**単元評価シート**

平成　　年　　月　　日

評価者【　　】

教科　国語　単元名【「走れメロス」の謎に迫ろう】

参考資料：単元末テスト，生徒による授業評価結果，その他授業の記録

単元構成　　指導内容・指導形態

第１時

第２時

第３時

第４時

第５時

第６時

**A項目については，おおむねよいものは○，　改善の余地があるものは△で記入**
**B項目については，自由に文章で記入**

| | | 評価項目 | 評価方法 | 評価 |
|---|---|---|---|---|
| A | 1 | 「走れメロス」の叙述に即して，主題を読み取らせることができたか。 | 感想文 | |
| | 2 | 学習課題は，適切であったか。 | 観察 | |
| | 3 | 指導時数や構成（第１時～）は適切だったか。 | ノート・観察 | |
| | 4 | 自分の考えを形成し，述べ合う場が設定できたか。 | 観察 | |
| | 5 | ワークシートや補助資料は適切で生徒の学習意欲を喚起したか。 | 観察 | |
| | 6 | 生徒は音読や話し合いに積極的に取り組んでいたか。 | 音読テスト | |
| | 7 | 各活動において，グループ学習やペア学習などの学習形態は適切であったか。 | 観察 | |
| | 8 | 生徒の考えを授業中生かしていたか。 | 観察 | |
| | 9 | 生徒の学習状況をつねに意識していたか。 | ノート | |
| | １０ | 単元末テスト問題は妥当だったか。 | テスト | |
| B | **〈本単元指導における成果・強調点〉** | | | |
| | **〈具体的な改善点〉** | | | |

※『学校評価に関する研究　学校改善につながる学校評価の在り方　平成15・16年度』，『学校改善につながる学校評価Q＆A　平成16年度版』（茨城県教育研修センター刊）を参考に改変した。

**Q23　授業参観表を用いて，授業を見学したいと思います。授業参観表の例を教えてください。**

Ａ：以下に３例示します。適宜，各学校の実態に応じて項目を絞って実施するとよいでしょう。

**○指導者を見る観点１～１７　　○生徒を見る観点１８～２４**

大変よい　５　　よい　４　　普通　３　　よくない　２　　で評価

○該当観点がない場合は斜線を入れる　　○自由記述欄２５には良かった点等感想を記入

教科【　　】

授業者【　　先生　】

| | 観　点 | 評　価 |
|---|---|---|
| 1 | 本時のねらい（学習目標）をわかりやすく示したか。 | |
| 2 | 興味・関心をひくような導入の工夫があったか。 | |
| 3 | 説明はわかりやすかったか。 | |
| 4 | 発問や補助発問は適切であったか。 | |
| 5 | 指示は的確に伝わったか。 | |
| 6 | 活動や作業の説明や指示は明確だったか。 | |
| 7 | 活動や作業に積極的に取り組もうとしている生徒へ適切な指導をしていたか。 | |
| 8 | 活動や作業が遅れがちな子どもへ適切な指導をしていたか。 | |
| 9 | グループごとの話し合いの指導は適切だったか。 | |
| 10 | できるだけ多くの意見を引き出すようにしていたか。 | |
| 11 | 計画的な板書であったか。 | |
| 12 | 見やすくわかりやすい板書であったか。 | |
| 13 | 生徒の発言を簡潔に板書できたか。 | |
| 14 | 学習内容を理解させるための適切な補助資料や補助プリントだったか。 | |
| 15 | まとめは簡潔でわかりやすかったか。 | |
| 16 | 生徒のつぶやきや表情等にも気をつけていたか。 | |
| 17 | 声の音量や表情，話術，ジェスチャー等は効果的だったか。 | |
| 18 | 生徒が本日の学習目標に対して興味関心を示している。 | |
| 19 | 生徒が聞くべき時にはしっかり聞き，作業等すべき時にはきちんと作業している。 | |
| 20 | 生徒がねばり強く教科書を読んだり問題に取り組んでいる。 | |
| 21 | 生徒が自分なりの考えや板書等をノートにきちんと書いている。 | |
| 22 | 生徒が積極的に発言したり，話し合ったりしている。 | |
| 23 | 生徒がきちんと返事をし，わかりやすく発表している。 | |
| 24 | 生徒がメモをとりながら真剣に聞いている。 | |
| 25 | 参観者【　　】 | |

【　　】 先生　参観表

達成○

| 項　　目 | | チェック | 気　づ　き |
|---|---|---|---|
| 導入 | 生徒の意欲を高めるような課題提示を工夫している。 | | |
| | 授業のはじめに本時のねらいが示されている。 | | |
| | 学習計画表等で学習の見通しが示されている。 | | |
| | 必要に応じてワークシート等の教材・教具が準備されている。 | | |
| 展開 | 授業内容を構造的に表現し，わかりやすく板書している。 | | |
| | 適切に発問・指示をしている。 | | |
| | 個別学習の時間を確保している | | |
| | 生徒の発言・活動に対する評価（評言）が行われている | | |
| | 机間指導をし，個別指導も行われている。 | | |
| | 座席表等を利用した観察が行われている。 | | |
| まとめ | 授業の最後に本時のまとめが示されている。 | | |
| | 生徒の振り返り活動が確保されている。 | | |
| 生徒の様子 | 担当教員の説明をしっかり聞いている。 | | |
| | 発言者の発言に反応しながら聞いている。 | | |
| | 聞き手を意識して，はっきりと大きな声で発言している。 | | |
| | 板書をきちんと写している。 | | |
| | 大事な点はメモを取ったりしながら自分なりにまとめている。 | | |
| | クラス全体で学習規律が守られている。 | | |
| 参観者氏名（　　） | | | |

＊参考文献　『確かな国語力を育てる国語科授業の探究』（山本名嘉子　著　　渓水社　所収
廿日市市立宮園小学校の実践を高校用に改変）

【　　】先生　参観表

おおむね達成○　　不十分な面あり△　　達成されていない×

| | 観　点 | 評価 |
|---|---|---|
| 1 | 最後列の生徒にまで聞こえる声の大きさである | |
| 2 | 全員に聞かせるべき内容を話す時，作業を中止させ，注目させている | |
| 3 | 早口にならず，生徒の顔を見て話している | |
| 4 | 「あの」「それ」等のあいまいな指示語を使わず，説明・発問している | |
| 5 | 発問は一問一答式でなく，生徒の思考を深めるものとなっている | |
| 6 | 生徒の思考の流れに沿った内容や配列になっている | |
| 7 | 発問・指示のあとに，生徒の理解の様子を確かめている | |
| 8 | 発問に対する答えを必ず生徒に返している | |
| 9 | 説明内容や生徒の質問に対する答えに誤りがない | |
| １０ | 生徒の発言を適切に修正したり，位置付けたりできる | |
| １１ | 発言する生徒だけでなく，他の生徒の反応も見ている | |
| １２ | ３／４以上の生徒が作業を終えられる時間を確保している | |
| １３ | 発問・指示に矛盾がない | |
| １４ | 適切な言葉遣いができている | |
| １５ | 多くの生徒が今何に取り組めばよいか理解し見通しを持って活動している | |
| １６ | 生徒がノート等に適切に記載している | |
| １７ | 生徒の様子を見ながら適切な指示がだせる | |
| １８ | 机間指導しながら一人一人の状況に応じて適切な声かけをしている | |
| １９ | 板書内容や文字に誤りがなく，丁寧に書かれている | |
| ２０ | 最後列からも見えるような大きさで書かれている | |
| ２１ | 時間内に予定の学習を終えている | |
| ２２ | 授業の最後に学習を振り返り，学習内容の確認をしている | |
| ２３ | 授業の最後に自己評価や教師の評価の場が設定されている | |
| ２４ | 説明等に差別語や不快語が含まれていない | |
| ２５ | 学習の妨げになる行為に対して毅然と指導対処できる | |

＊公開授業観点評価表
（岐阜県教育センター）を改変

あくまでも，授業改善のための参観の視点例です。「わかる・面白い・ためになる」授業作りを目指しての先生方の取組を支援する目的で使用していくことが大切です。

課題解決に向けてみんなで取り組める

ポスタワーとは‥‥
従来のポスターセッションの技法におけるシート（ポスター）を立体化し，よりビジュアルにしたもの。
（独立行政法人教員研修センターが開発・指導）

## 〈実践編〉「ワークショップ型研修で校内研究を見直す」
## 事例①　ポスタワーでシンボル化（年度当初）

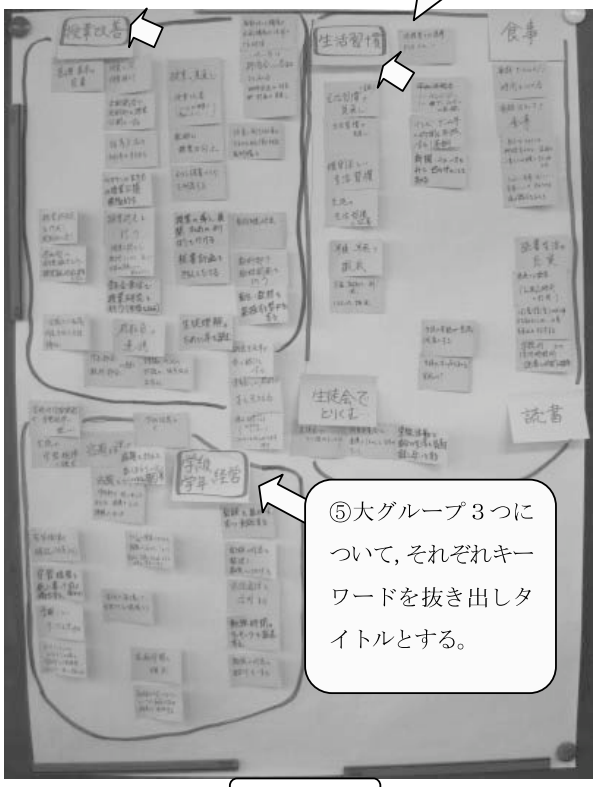
〈メリット〉
・自校の教育課題解決のためのヒントを話し合いの中から手軽に得られる。
・参加者が成果を発表することにより，プレゼンテーションの力量も向上させられる。
・成果物（ポスタワー）は，省スペースでも展示が可能なため，職員室等に常設展示し，課題解決の方向性や進捗を確認できる。

①②直感でよい。
見やすいようにマジックで付箋に記入する。
２０分で一人１８個のアイディアを出すことができる。

展開例：(90 分)（６人程度の班編制とする）
① テーマに対する自分の考えを３枚付箋に書き，ブレインライティング用紙に貼り付ける。３分ずつ時間を計る。
② 右回りに回し，１段目に記入されている内容から連想したことをそれぞれ３枚の付箋に書き２段目に同じように貼り付ける。（自分が記入したものが手元に戻ってくるまで繰り返す。）
③ ブレインライティング用紙を回しながら自分の書いた付箋を集め，大まかにグルーピングしてみる。
④ 模造紙の上で，付箋紙をグルーピングしていく。タイトル等をつけながら，なるべく大きなグループをつくっていく。
⑤ 大グループの中で重要な３つを選択し，それぞれのキーワードを取り上げタイトルとする。(模造紙Ａ)
⑥ 別の模造紙（模造紙Ｂ）を三角柱になるように４×４に折る
⑦ タイトルを三角柱の上部３面にそれぞれ貼る。
⑧ 模造紙上の付箋を見ながら，縦に３つ×３面のキーワードを抜き出し等して記入する。
⑨ 三角柱を完成させ，各キーワードに対応するアイディアを記入した付箋を貼り付ける。
⑩ ポスタワーをもとにグループ発表セッションを行い，参加者の感想をもとに各グループで振り返る。

③ブレインライティング用紙上で自分の出したアイディアを整理

④なるべく大きなグループを作っていく。



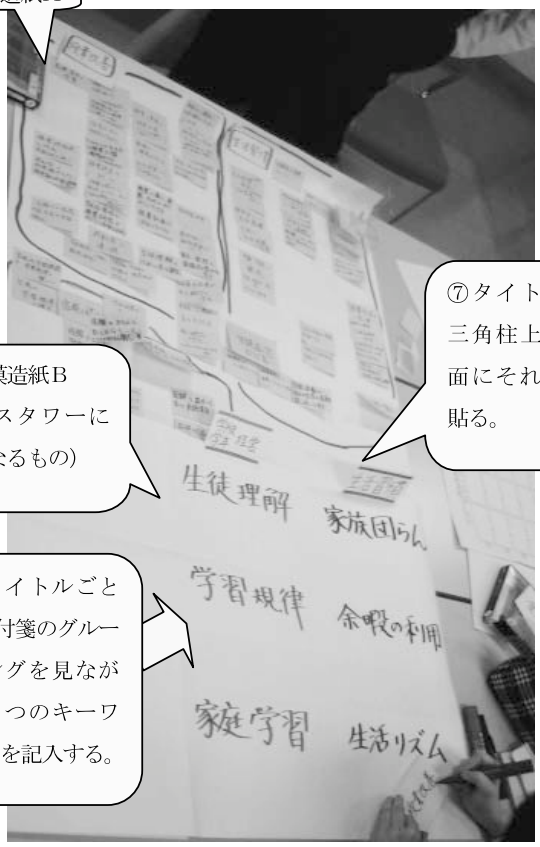

⑤大グループ３つについて，それぞれキーワードを抜き出しタイトルとする。

模造紙Ａ

⑥模造紙Ｂを４×４に折る。
（今回は横長で実施）

⑥模造紙の下１／４を折り返し強度を補う。
また右１／４が重ねしろとなる。（写真は下と右を織り込んだ状態）

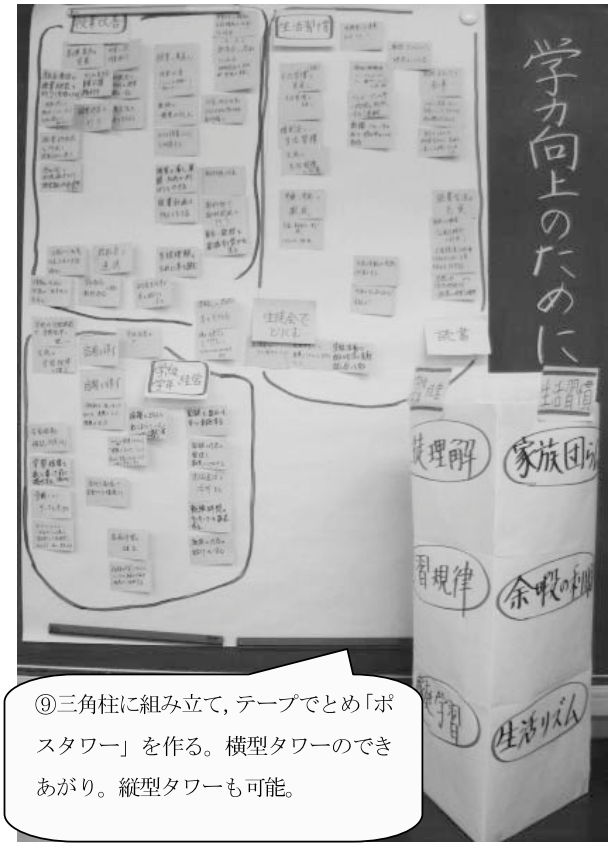
上：模造紙Ａ



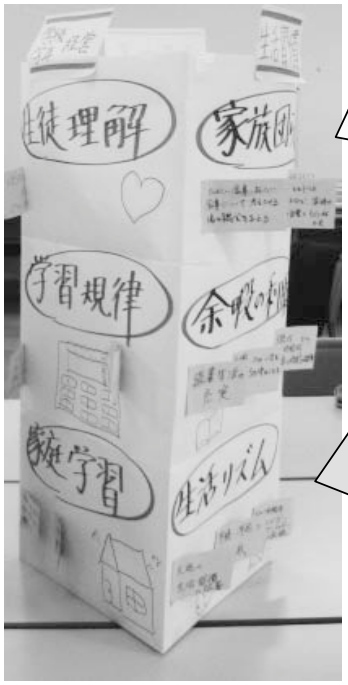

⑦タイトルを三角柱上部３面にそれぞれ貼る。

下：模造紙Ｂ
（ポスタワーになるもの）

⑧タイトルごとに，付箋のグルーピングを見ながら３つのキーワードを記入する。

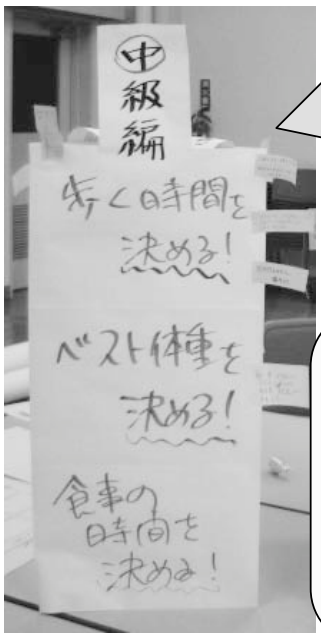



⑨三角柱に組み立て，テープでとめ「ポスタワー」を作る。横型タワーのできあがり。縦型タワーも可能。




⑨キーワードは文字色等を工夫したりイラスト等も入れて視覚的に目立つものがよい。そして主な付箋を貼り付ける。

できあがったポスタワーを見ながら担当する部や時期を検討・表示していくことも可能。学校便りで９面の項目を毎月のテーマに取り上げることも考えられる。




「健康的な生活を送るには」というテーマでポスタワー化したもの。縦や横のつながりを工夫し，行動目標化していくことも可能。

⑩ポスターセッションと同じように，発表者と聴衆に分かれ発表を行う。発表者はタワーを回転させながら，発表する。聴衆に感想や意見を付箋に書いてもらいタワーに貼り付けてもらい，班ごとの振り返りに活用する。

## 事例②　ビデオ視聴による授業研究（年度途中）

松江教育センターが今年度行った出前講座「授業研究支援訪問」を紹介します。授業研究の意義の理解と付箋を用いた少人数協議の授業研究スタイルを体験する目的で実施しています。夏休み等の長期休業を活用した授業研究会を設定していく上で参考にしてください。

〈「授業研究支援訪問」プログラム〉

＊９０分～１２０分で実施。下記の時間は９０分実施の場合の目安時間。（養護学校の実践例）

1　はじめに

　目的の確認

2　ミニ講義（１５分）

　1）改めて「授業研究」の意義は？

　2）これからの「授業研究」は？

3　「授業力」を高めるためのマッピングコミュニケーション（１５分）

　1）ペアで考える

　　「養護学校におけるよい授業とは」

　2）全体で出し合い，よい授業の要件整理

4　ビデオ視聴による授業研究　（４０分）

　1）ＶＴＲ（２０分程度に編集）による授業を全員で見ながら，よかった点（ブルー）と気になった点（ピンク）を一人各３枚以内で付箋に書く。

　（視点等にはない授業者や子どものよいところを「言葉のプレゼント」としてメモする。）

　2）予め４人程度のグループを作っておき，模造紙上で整理，タイトル付けを行う。

　3）改善点については，具体的な提案を黄色の付箋に書く。

5　全体でグループの模造紙を掲示し発表・共有　（１０分）

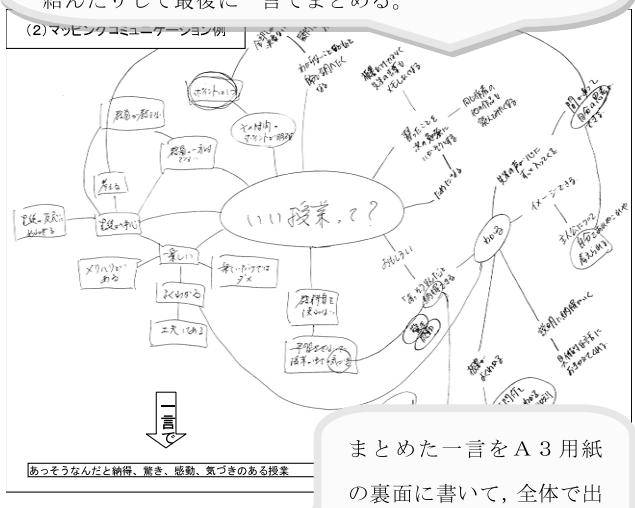
6　まとめ　１０分

　1）「よい授業の要件と合致している点」「今後追究したい点・改善点」の確認。

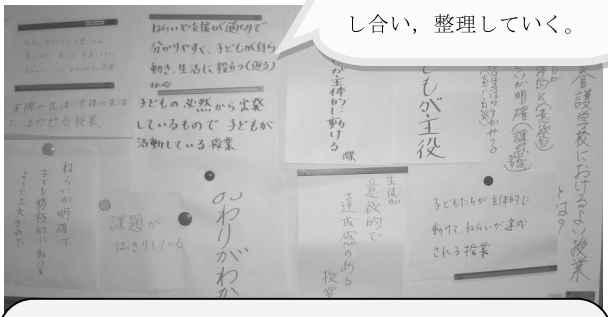
　2）付箋を用いた少人数協議の授業研究の振り返りと意見交換。

マッピングコミュニケーション例

制限時間１５分。二人一組になって，「よい授業」についてＡ３用紙に思いつくままどんどん書いていき線で結んだりして最後に一言でまとめる。




まとめた一言をＡ３用紙の裏面に書いて，全体で出し合い，整理していく。



養護学校におけるよい授業の要件（キーワード）

①子どもが主体的に（意欲的に）

②ねらいが明確（課題がはっきり）

③今後の生活に活かせる（必然からの出発）

グループで作成中の模造紙

## 事例③　研究計画を見直す（年度末）

３ヶ年計画で校内研究をすすめていると仮定し，２年次終了段階で，最終年に向けての改善の方向性を探る校内研修例を以下に示します。

この時，改善をめあてに，「まず，評価から入る。」という意識が大切となります。

〈手順〉＊６人程度の小グループにて実施

1　自分の考えを付箋に書く。

① 必要があれば，これまでの研究の進捗状況について研究主任が説明する。

② 全体計画や年間指導計画等の中から改善した方が良いと思われることを付箋５枚程度に考えを書く。

③ フェルトペン等を使い，太い文字で，文章にして書くと良い。１枚に１項目とする。

2　課題に応じて整理する。

① 中央部分に全体計画や年間指導計画等を貼り付けた模造紙を準備する。

② 両側のあいたスペースの一方をカリキュラム（学習内容等）とし，もう一方をマネジメント（組織・経営等）の領域として，分けて付箋を貼り付ける。

③ リーダーから，内容を読みながら貼り付ける。メンバーは同じ内容の付箋を持っていれば一緒に出していく。全員が自分の付箋を出す。

④ 出た付箋を眺めて，全体計画等の該当箇所の近くに付箋を貼り，同じような内容はグルーピングしていく。

3　付箋がグルーピングできたら，タイトルをつけていく。

① 整理された付箋を再度，読み返しながら，その内容をまとめるタイトルをつけていく。

② 色マジック等を使い関係のあるところを線で結んだりして仕上げていく。

③ 全体のまとめを話し合う。

④ まとめとリンクさせながら，模造紙の上に全体のタイトルを書く。

4　グループごとに発表し，共有化する。

1

2

この点について改善してはどうかな。

付箋がグルーピングできたら，タイトルをつけていこう。

3

全体のタイトル

4

完成

全体計画・年間計画を模造紙の中央に貼り付ける。

## 事例④　研究の行動計画を作る（次年度当初）

年度末に見直した研究の在り方・方向性について，改善に向けての具体的な実行策を考えていきます。

〈手順〉

1　自分の考えを付箋に書く。

①前年度の研究の進捗状況について研究主任が説明する。

②前年度にまとめた模造紙を見ながら，思いつくままに自分の考えを付箋に書いていく。

③フェルトペン等を使い，太い文字で，文章にして書く。１枚に１項目とする。

2　各自が付箋を出す。

リーダーからマトリックスシート（後でコピーするためＡ３用紙とした。模造紙大でも可）に，内容を読みながら貼り付ける。メンバーは同じ内容の付箋を持っていれば一緒に出していく。似たような内容のものは重ねていく。全員が自分の付箋を出し，第一段階として全ての付箋を貼り付けてみる。

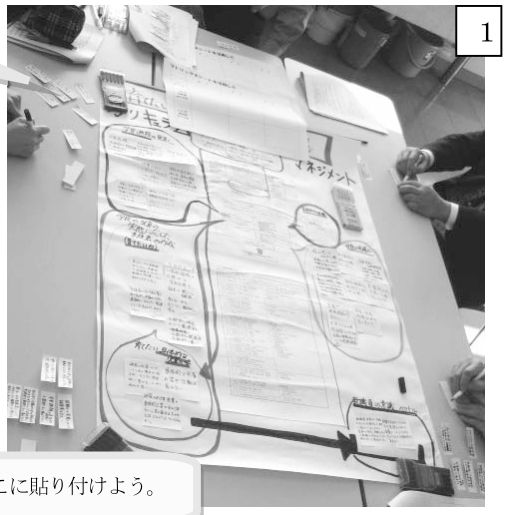
3　全体を眺める。

縦軸（すぐ・一学期中・今年度中）と横軸（個人・学年・学校）を考慮して，無理のないように実行可能かどうかという視点でもう一度貼り直してみる。

4　協議しながら，関係を矢印で結んだり，キーワード化することにより，行動計画の重点ポイントを整理していく。

5　複数グループで作成した場合は，共有化のための発表を取り入れたり，研究部が各グループから出された成果物をさらに一つにまとめる。（作成物はコピーして配布が可能）

思いつくままに書いてみよう。

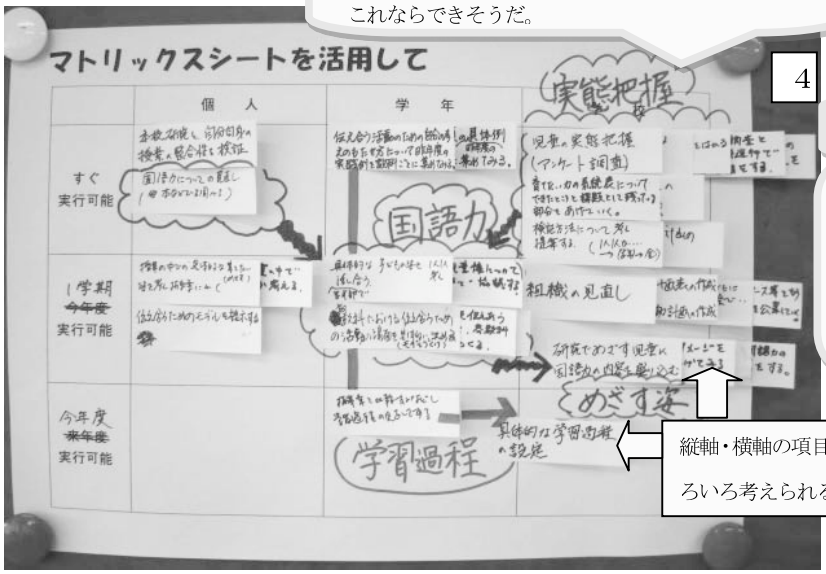



ここに貼り付けよう。

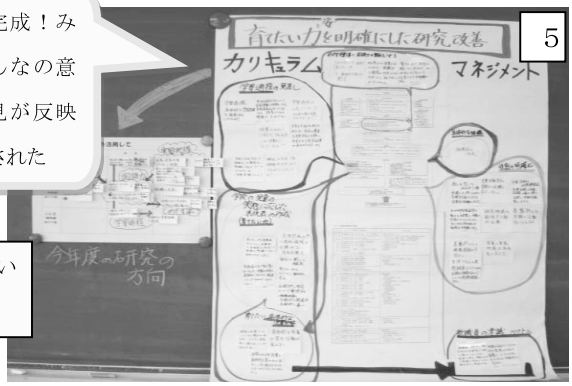
とりあえず第一段階ができた！！

いろいろ意見がでたぞ。でも「すぐ」に偏っているなあ。

付箋どうしをさらにまとめたり，ずらしたりして，これならできそうだ。




完成！みんなの意見が反映された




縦軸・横軸の項目はいろいろ考えられる

〈主な参考文献〉
・『授業力向上の鍵　ワークショップ方式で授業研究を活性化！』（横浜市教育センター　時事通信社刊　2009）
・『元気の出る　園内・校内研修の手引き』（鳥取県教育委員会事務局東部教育局　2008）
・「授業研究の活性化を図るための検証方法の工夫・改善－研修方法の提案・検証・評価を通して－」（秋田県総合教育センター　2008）
・『校内研修ハンドブック－授業研究の改善を目指して－』（徳島県立総合教育センター　2008）
・「『学校経営・運営ビジョン』実現のための組織力，特に教師力向上の在り方－教師の自己診断を生かしたＯＪＴ実施の工夫－」（福島県教育委員会 2008 ）
・『授業研究ハンドブックⅡ・Ⅲ』（広島市教育センター　2006・2007　）
・『校内研修事例集　よりよい校内研修をめざして』（山口県教育委員会　2007　）
・「授業改善の日常化を図る校内研修～協働意識を生かした授業研究の取組みを通して～」（福島県教育センター　研究調査チーム 2007 ）

＊本書並びに校内研究・研修に関するお問い合わせ先

島根県教育センター　企画・研修スタッフ
学校・教職員支援事務局
（℡0852-22-5865）

〈参考〉これまでの研究：
・「授業力向上のための研修の在り方」（1年次）
（http://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/kenkyu/18nendo.data/jyugyokojyo.pdf）
・「授業力向上のための研修の在り方ーワークショップ型授業研究の提案ー」（2年次）
（http://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/kenkyu/19nendo.data/kyousyokuin_kenshu_staff.pdf）
・「校内研修の充実・活性化に資するための研究～校内研修経営という視点に立って～」（3年次）
（http://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/chousa_kenkyu/20nendo.data/kyousyokuin_kennsyuu.pdf）